

参考資料

(人口推計や医療ニーズ、受療動向などの各種データ)

－計画の構成（目次）－

第1章 計画に関する基本的事項

第2章 地域の現状

第3章 保健医療圏（医療圏）及び基準病床数

第4章 保健医療提供体制の構築

第1節 患者の立場に立った保健医療サービスの向上

第2節 良質な医療提供体制の整備、医療機関の機能分担と連携の推進

第3節 保健医療を担う人材の確保・育成

第4節 地域保健医療対策の推進

第5節 保健・医療・介護・福祉の総合的な取組の推進

第5章 医療連携体制構築のための県民の参画

第6章 東日本大震災津波からの復興に向けた取組

第7章 計画の推進と評価

地域編

資料編

岩手県独自記載

【参考】岩手県保健医療計画（2018-2023）の概要②

＜第1章 計画に関する基本的事項＞

（計画の性格）

- 本計画は、次に掲げる法定計画をはじめとする**関連施策に関する計画と調和を図り**
 - ・ いわて県民計画
 - ・ 健康いわて21プラン（健康増進計画）
 - ・ 岩手県がん対策推進計画
 - ・ いわていきいきプラン（岩手県高齢者保健福祉計画、岩手県介護保険事業（支援）計画
 - ・ 岩手県障がい者プラン（岩手県障がい者計画、岩手県障がい福祉計画）
 - ・ いわて子どもプラン（次世代育成対策推進法による岩手県行動計画）
 - ・ 岩手県地域福祉支援計画
- 患者本位の、**良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を構築**し、県民の医療に対する信頼の確保を目指し
- 県民だれもが、地域社会の中で、安心して、**保健・医療・介護・福祉のサービスが受けられる体制の確保を図るための総合的な計画**
- また、岩手県東日本大震災津波復興計画等を基本としつつ、**本計画に基づく施策の推進により、被災した医療提供体制の復興に向けた取組の着実な達成**を目指す

（計画の期間）

- **2018年度（平成30年度）から2023年度（平成35年度）までの6か年計画**

（中間見直し）※R2年度実施

- **新型コロナウイルス感染症対応を記載**

【参考】医療計画における医療圏の概要①（参考：厚労省資料）

- 医療法において、**病床の整備を図るべき地域的単位（二次医療圏）**、**特殊な医療を提供する地域的単位（三次医療圏）**をそれぞれ定義し、医療計画の中で各圏域を定めている。
- このほか、**5 疾病・5 事業及び在宅医療に係る圏域**については、二次医療圏を基礎としつつ、**地域の実情に応じた弾力的な設定が可能**

【現行医療計画における全国での医療圏の設定状況】

二次医療圏

3 3 5 医療圏（R3.10月現在）

【医療圏設定の考え方】

一般の入院に係る医療を提供することが相当である単位として設定。その際、以下の社会的条件を考慮。

- ・ 地理的条件等の自然的条件
- ・ 日常生活の需要の充足状況
- ・ 交通事情 等

三次医療圏

5 2 医療圏（R3.10月現在）

※都道府県ごとに1つ（北海道のみ6 医療圏）

【医療圏設定の考え方】

特殊な医療を提供する単位として設定。

ただし、都道府県の区域が著しく広いことその他特別な事情があるときは、当該都道府県の区域内に二以上の区域を設定し、また、都道府県の協会周辺の地域における医療の需給の実情に応じ、二以上の都道府県にわたる区域を設定することができる。

※ 三次医療圏で提供する特殊な医療の例

- ① 臓器移植等の先進的技術を必要とする医療
- ② 高圧酸素療法等特殊な医療機器の使用を必要とする医療
- ③ 先天性胆道閉鎖症等発生頻度が低い疾病に関する医療
- ④ 広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特に専門性の高い救急医療

【二次医療圏設定に当たっての参考事項】

- ① 人口構造、患者の受療の状況（流入患者割合及び流出患者割合を含む。）、医療提供施設の分布など、健康に関する需要と保健医療の供給に関する基礎的事項については、二次医療圏単位又は市町村単位で地図上に表示することなどを検討する。
なお、患者の受療状況の把握については、患者調査の利用の他、統計学的に有意な方法による諸調査を実施することが望ましい。
人口規模が20万人未満の二次医療圏については、入院に係る医療を提供する一体の区域として成り立っていないと考えられる場合（特に、流入患者割合が20%未満であり、流出患者割合が20%以上である場合）、その設定の見直しについて検討する。なお、設定の見直しを検討する際は、二次医療圏の面積や基幹となる病院までのアクセスの時間等も考慮することが必要である。
また、設定を変更しない場合には、その考え方を明記するとともに、医療の需給状況の改善に向けた具体的な検討を行うこと。
- ② 既存の圏域、すなわち、**広域市町村圏、保健所・福祉事務所等都道府県の行政機関の管轄区域、学区（特に高等学校に係る区域）等に関する資料を参考とする。**
- ③ 地域医療構想の構想区域（法第30条の4第2項第7号に規定する構想区域をいう。以下同じ。）に二次医療圏を合わせることが適当であること。

【参考】本県の人口の変化①（二次医療圏別・年齢区分別 人口推計）

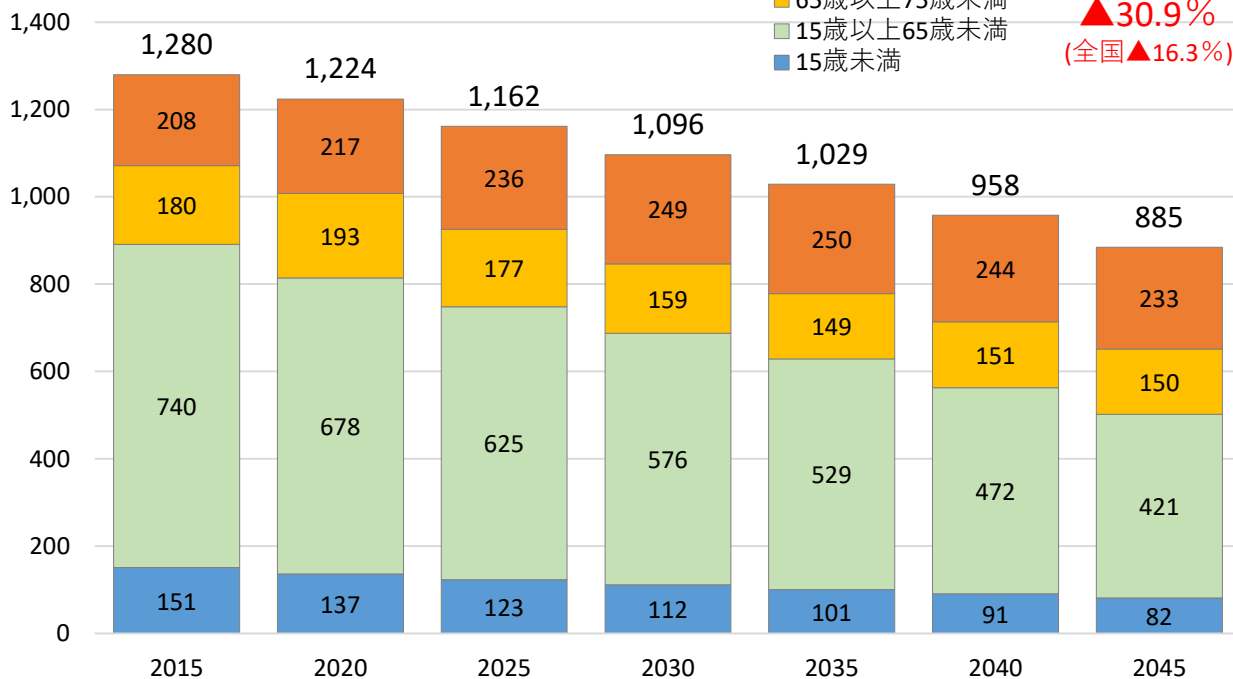
- 岩手県の人口は2015年から2045年までの30年間で▲30.9%減少する見込み（全国▲16.3%）。
- 65歳以上人口は2025年にピークを迎え減少に転じる見込み（全国の65歳以上人口のピークは2040年）。
- 15歳以上65歳未満人口は30年間で▲43.2%の減少が見込まれ、医療人材確保が困難になる可能性（全国平均▲27.7%）。
- 医療圏別では、県北・沿岸地域の減少率が特に高く、30年間で人口は平均▲43.9%、労働力人口は平均▲55.9%の減少が見込まれる。

（単位：千人）

岩手県計

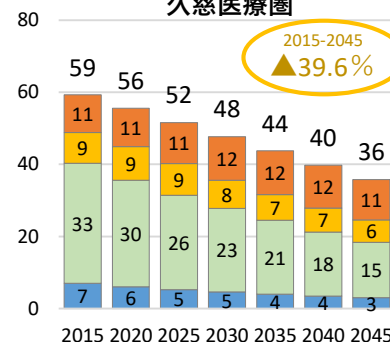
75歳以上
65歳以上75歳未満
15歳以上65歳未満
15歳未満

2015-2045
▲30.9%
（全国▲16.3%）



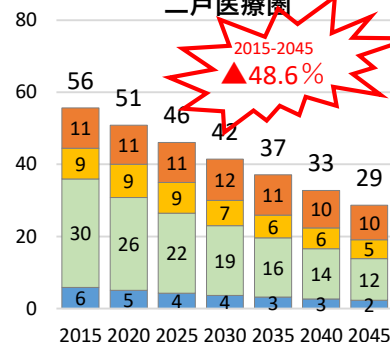
久慈医療圏

2015-2045
▲39.6%



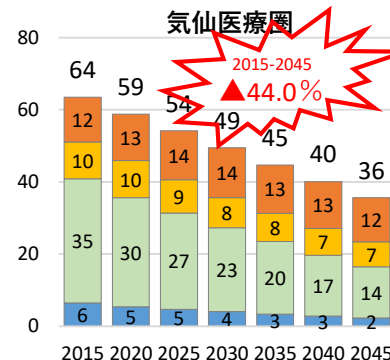
二戸医療圏

2015-2045
▲48.6%



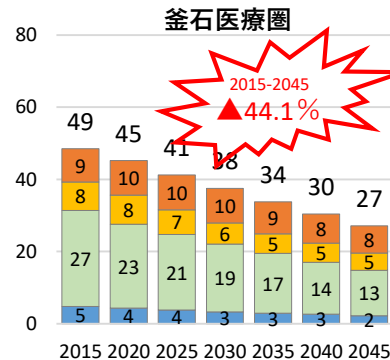
気仙医療圏

2015-2045
▲44.0%



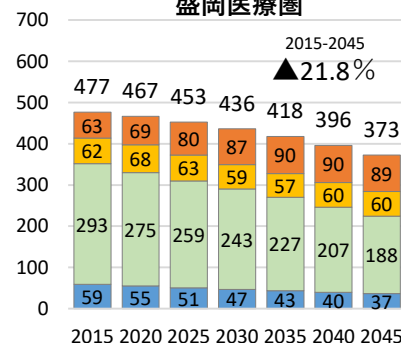
釜石医療圏

2015-2045
▲44.1%



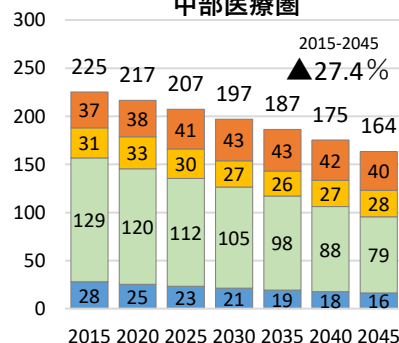
盛岡医療圏

2015-2045
▲21.8%



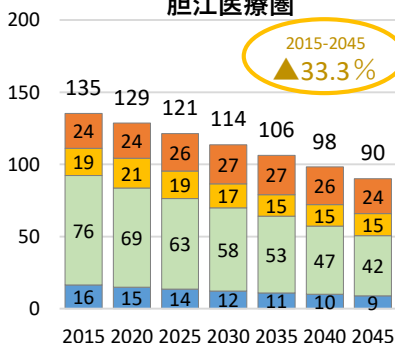
中部医療圏

2015-2045
▲27.4%



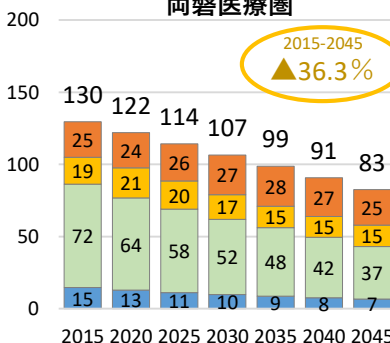
胆江医療圏

2015-2045
▲33.3%



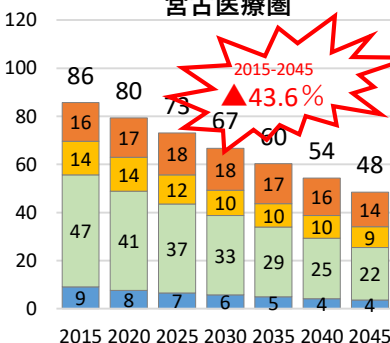
両磐医療圏

2015-2045
▲36.3%



宮古医療圏

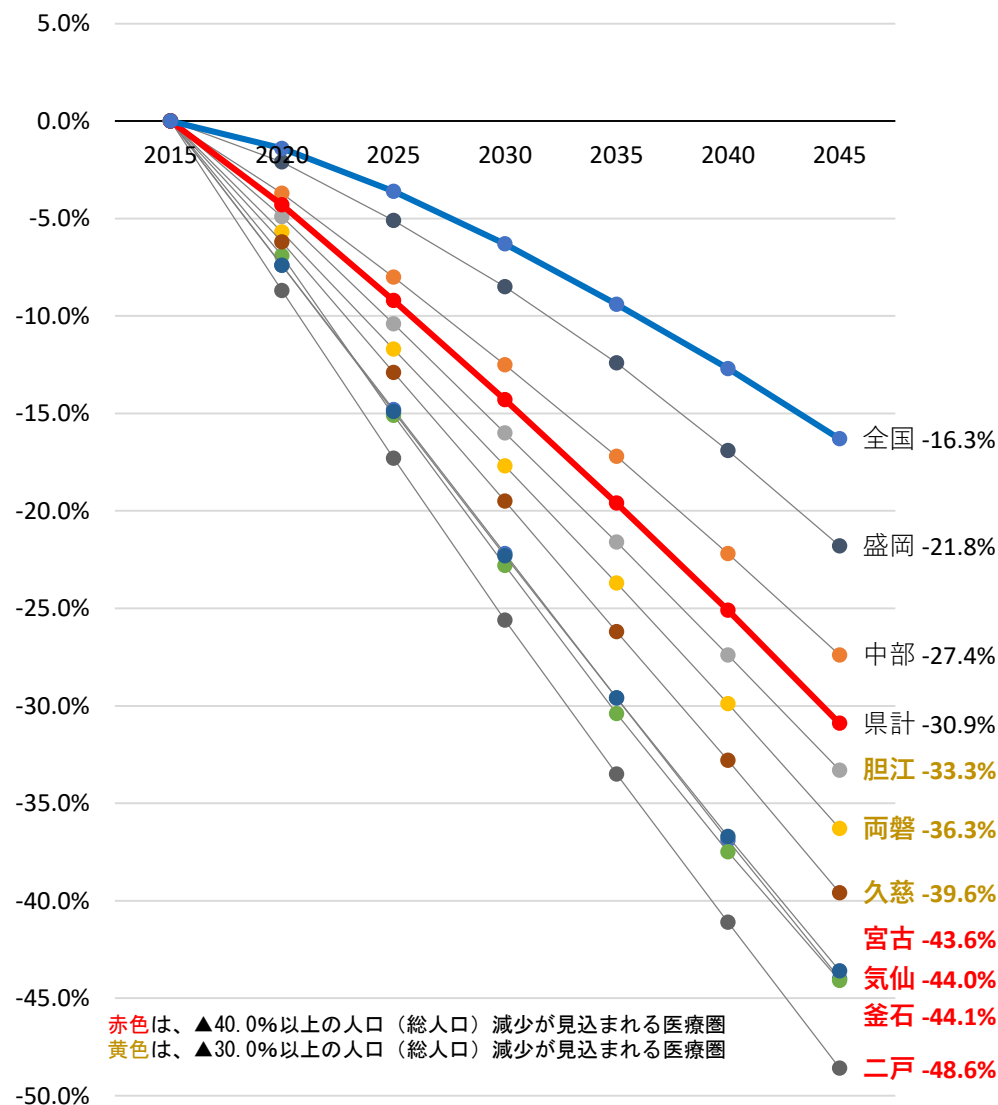
2015-2045
▲43.6%



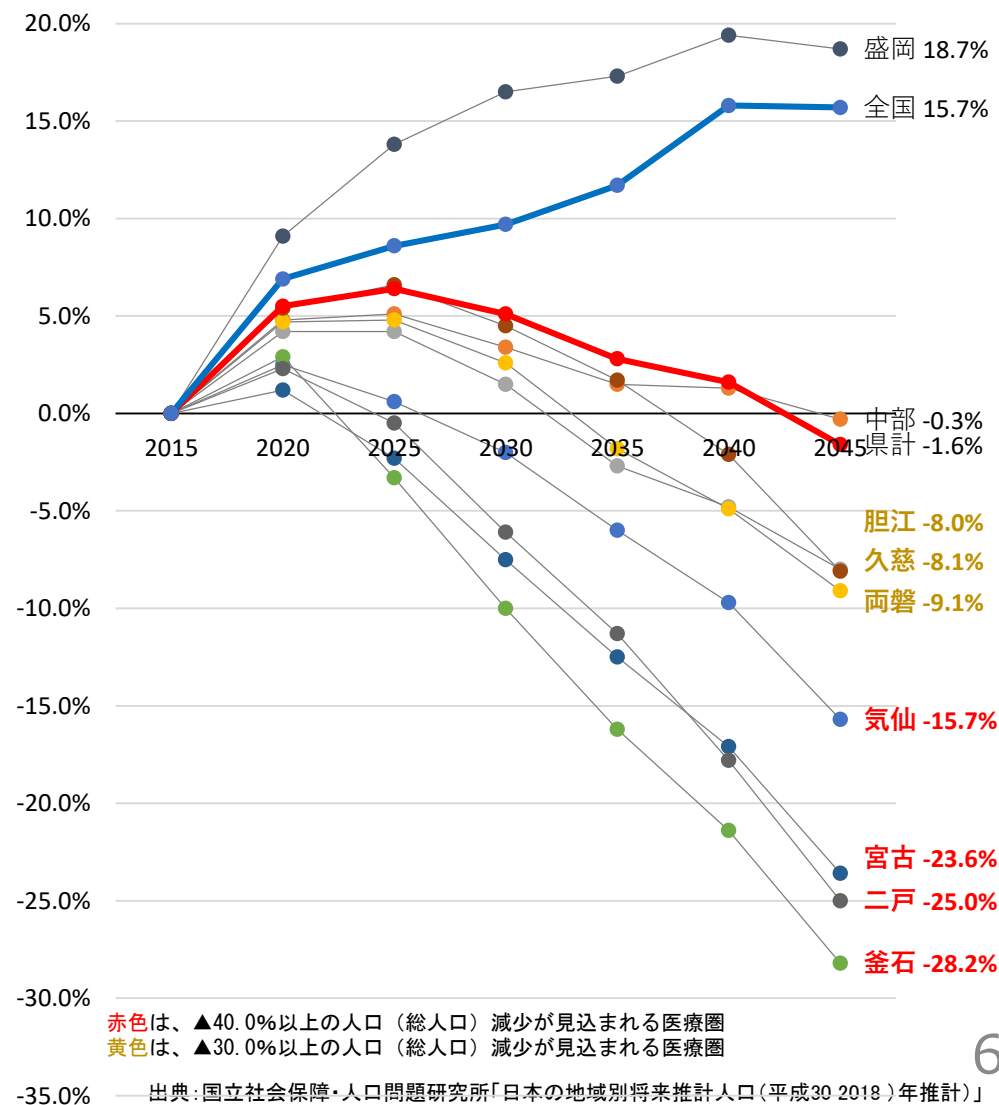
【参考】本県人口の変化②（2次医療圏別 人口増減率推計）

- 岩手県の人口は2015年から2045年までの30年間で▲30.9%の減少（全国▲16.3%）が見込まれ、特に県北・沿岸地域的大幅な減少が見込まれる。
- 受療率が特に高い65歳以上人口も2025年以降減少に転じるため、今後患者数の大幅な減少が見込まれる。（全国の65歳以上人口のピークは2040年）
- 盛岡医療圏では総人口が減少する中で65歳以上人口は2040年まで増加する見込み。他の医療圏は2025年以降、全年齢区分で減少が続く見込み。

人口増減率（総人口）



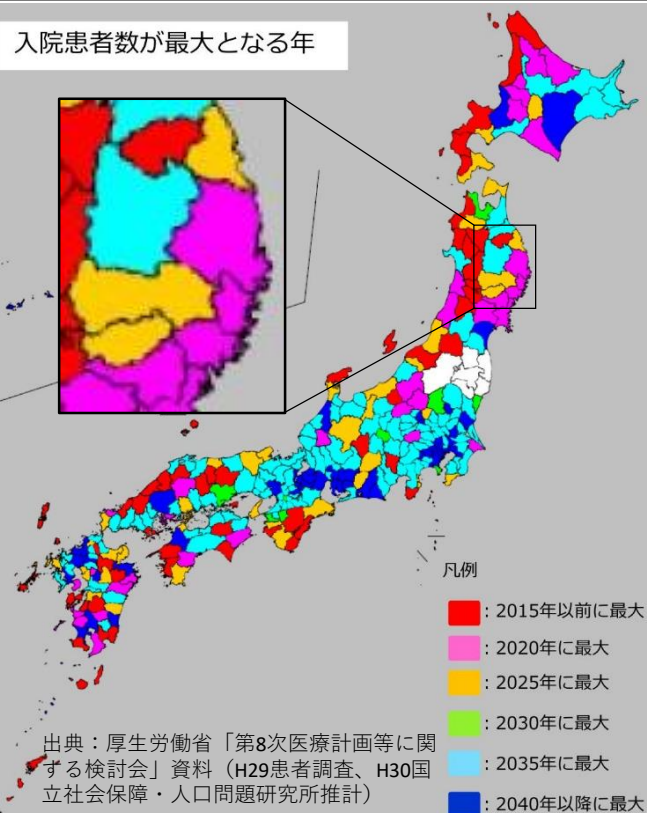
人口増減率（65歳以上人口）



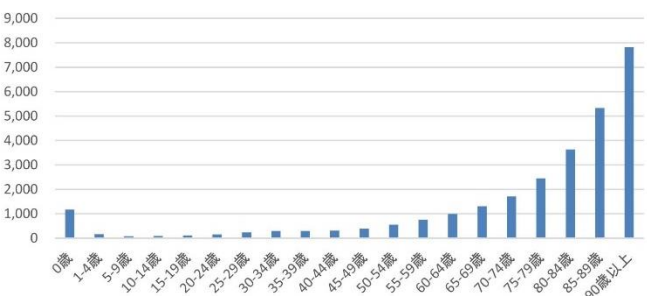
【参考】本県の医療需要の変化① (1日あたり入院患者数推計)

- 年齢別の入院受療率（高齢者ほど高い）と人口推計から将来の入院患者数を推計すると、全国の入院患者数のピークは2040年と見込まれる。
- 一方、全国に先行して高齢者人口が減少する岩手県では、入院患者数は2025年にピークを迎え減少に転じる見込み。
- 医療圏別では、盛岡医療圏は2035年まで増加するが、その他の医療圏は2025年までに減少に転じる見込み。

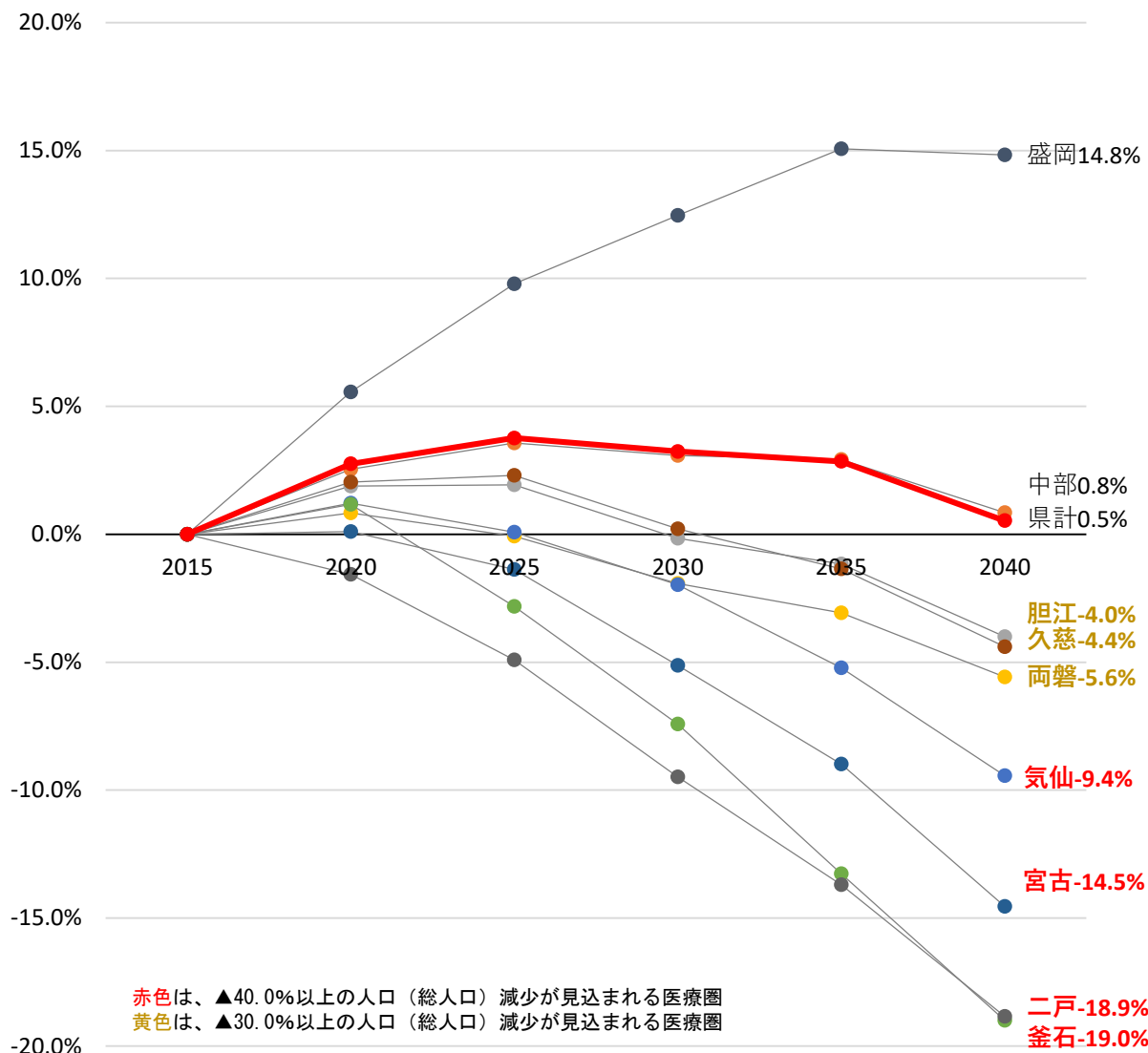
入院患者数が最大となる年



入院受療率（人口10万対）



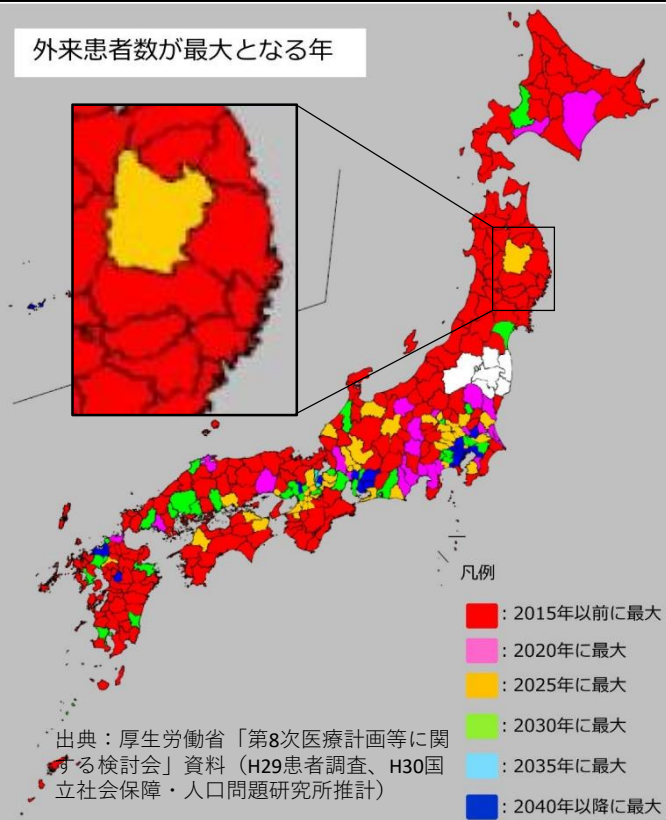
1日あたり入院患者数増減率



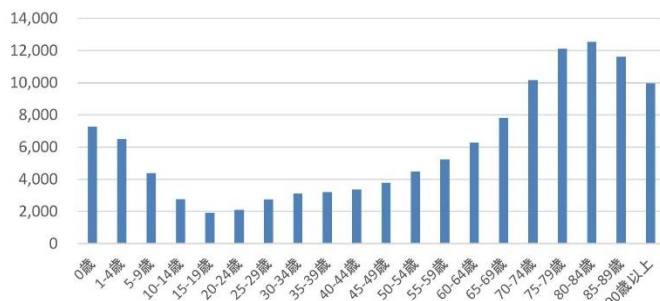
【参考】本県の医療需要の変化② (1日あたり外来患者数推計)

- 年齢別の外来受療率（乳幼児と高齢者が高い）と人口推計から将来の外来患者数を推計すると、全国の外来患者数のピークは2025年と見込まれる。
- 一方、岩手県の外来患者数は2015年以前にピークを過ぎており、2015年から2040年までの25年間で平均▲16.4%の減少が見込まれる。
- 特に県北・沿岸地域の減少が大きく、3割程度の減少が見込まれる。

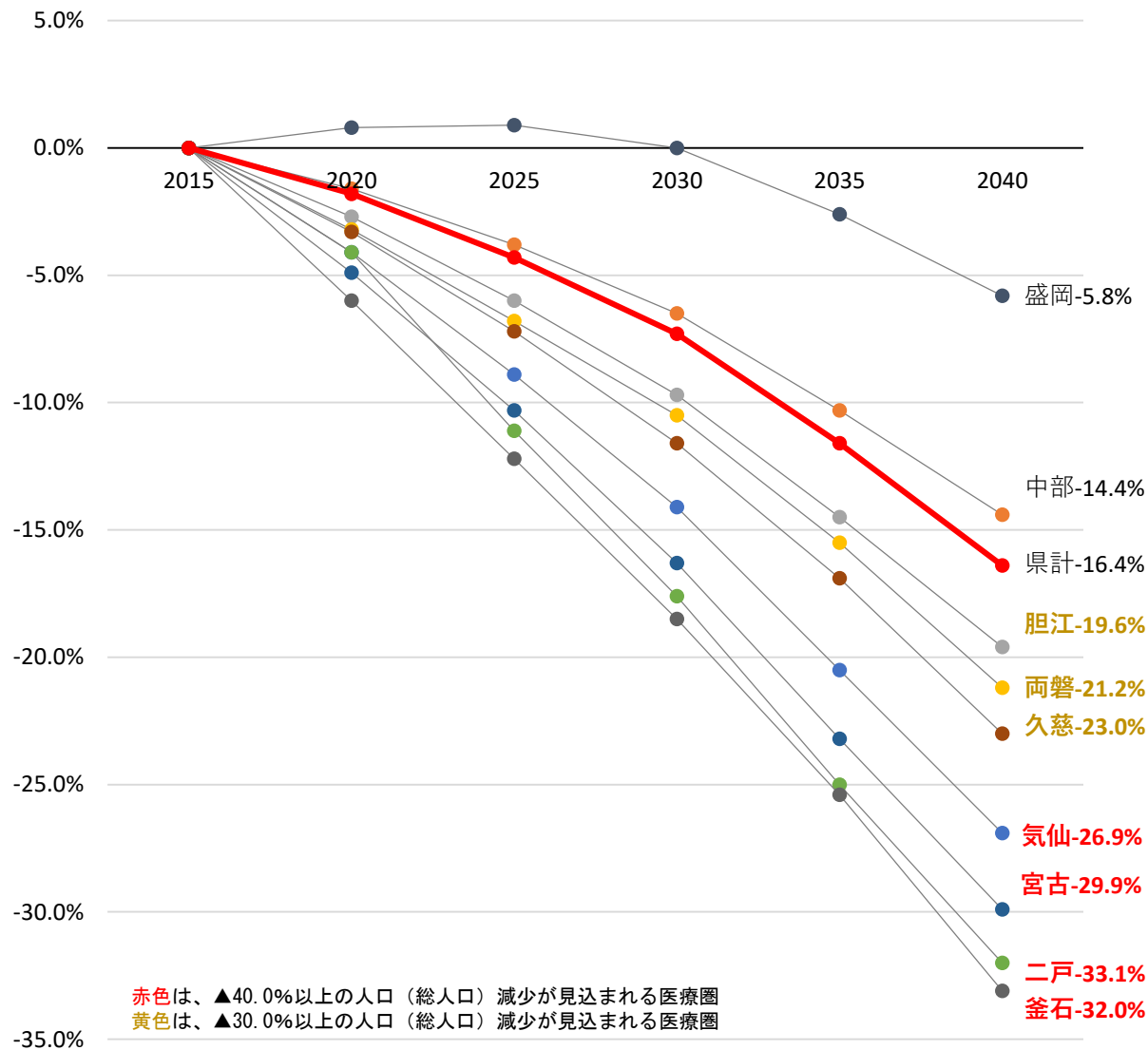
外来患者数が最大となる年



外来受療率（人口10万対）



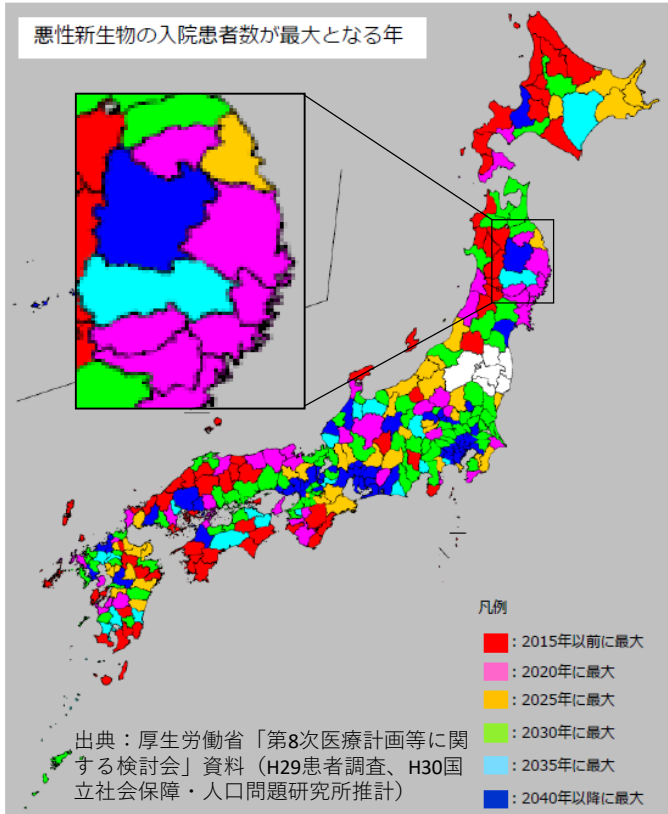
1日あたり外来患者数増減率



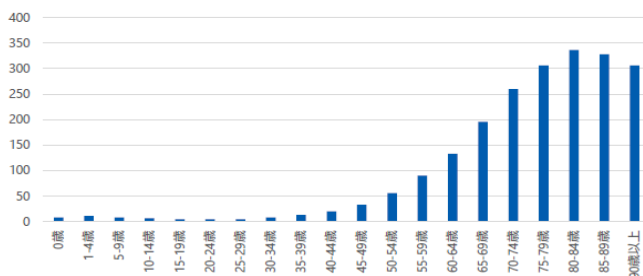
【参考】本県の医療需要の変化③（1日あたり がん入院患者数推計）

- 年齢別の入院受療率（高齢者ほど高い）と人口推計から将来の入院患者数を推計すると、全国の入院患者数のピークは2040年以降と見込まれる。
- 岩手県全体のがん入院患者数は、2030年をピークに減少傾向となることが見込まれる。
- 医療圏別では、2030年には、盛岡と中部医療圏を除く医療圏で減少が見込まれる。

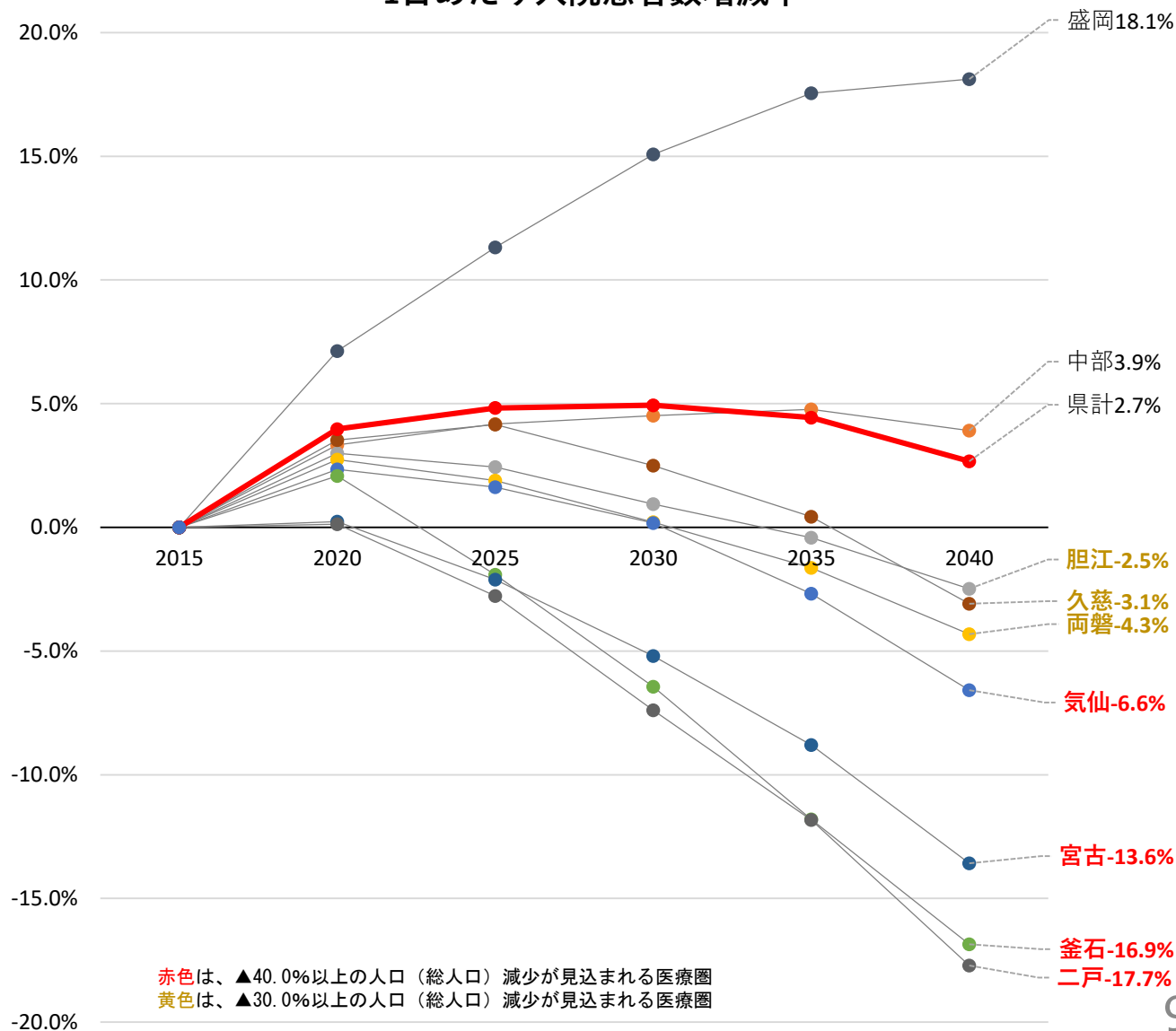
悪性新生物の入院患者数が最大となる年



悪性新生物の入院受療率（人口10万対）



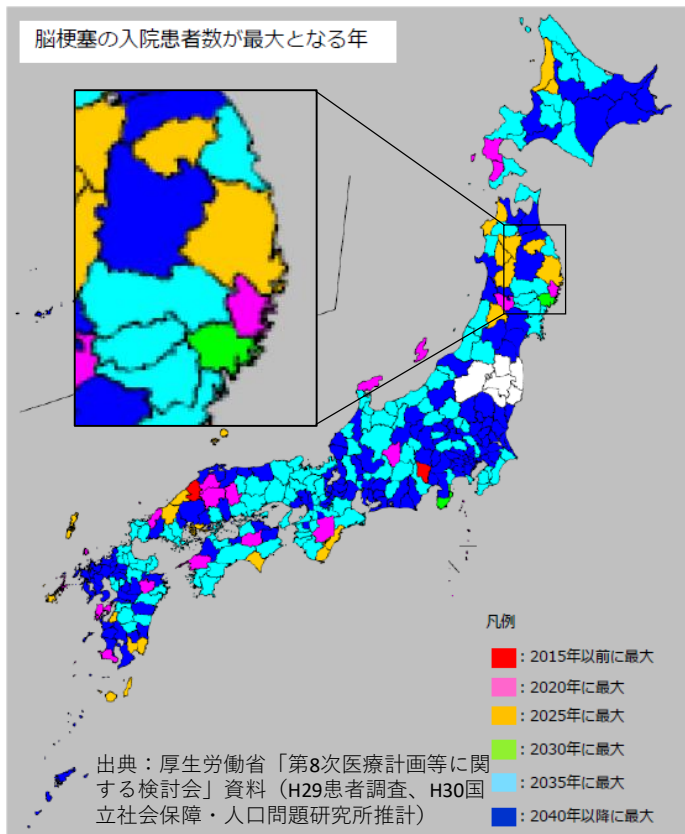
1日あたり入院患者数増減率



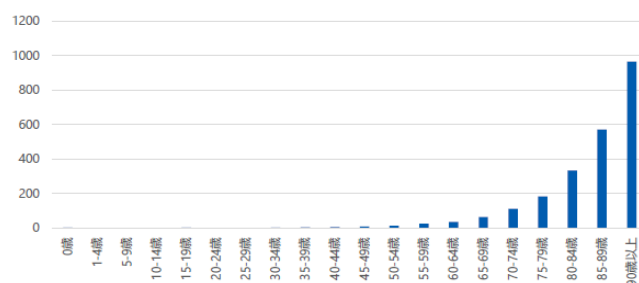
【参考】本県の医療需要の変化④

(1日あたり 脳梗塞入院患者数推計)

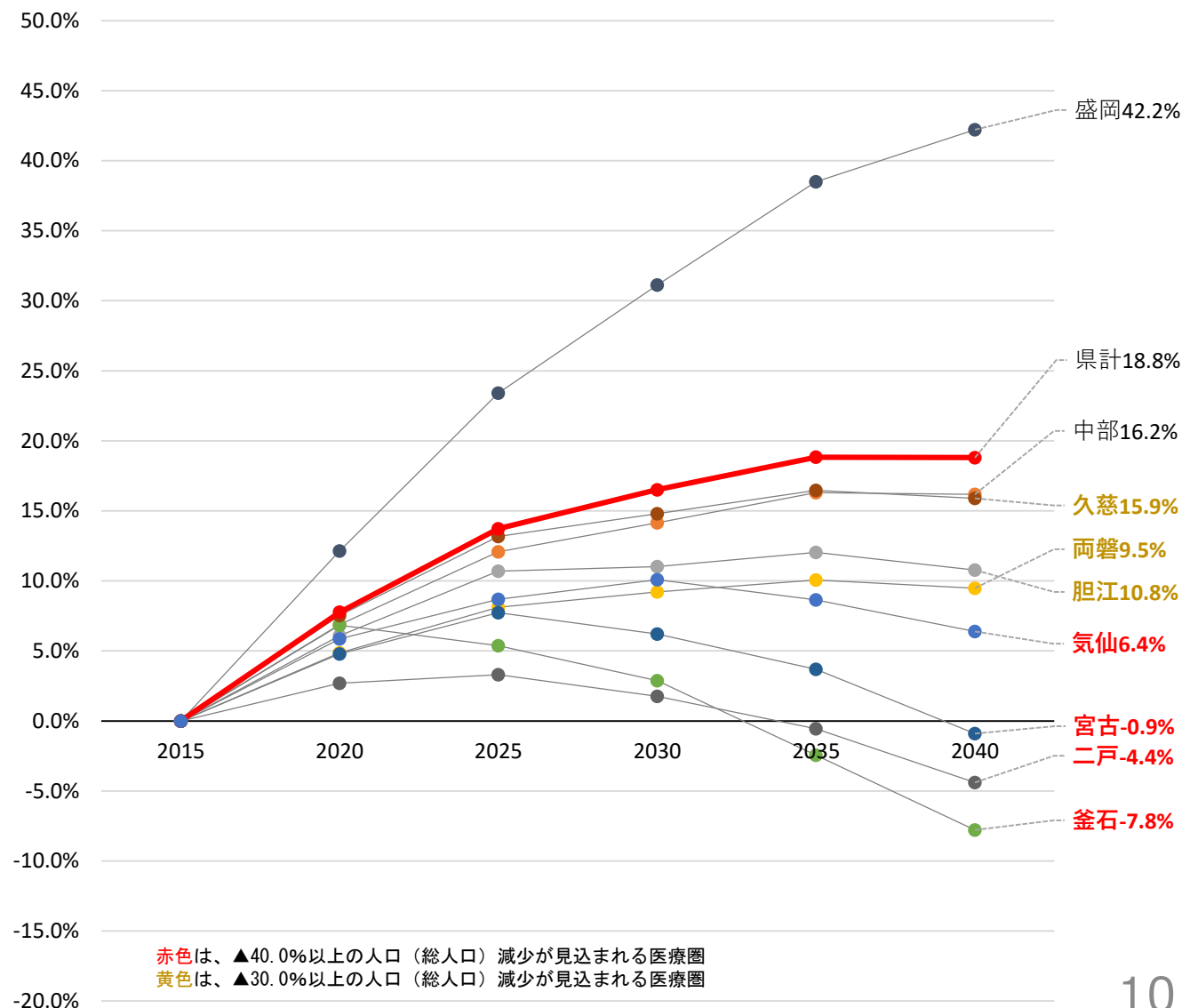
- 年齢別の入院受療率（高齢者ほど高い）と人口推計から将来の入院患者数を推計すると、全国の入院患者数のピークは2040年以降と見込まれる。
- 全国に先行して高齢者人口が減少する岩手県においても、増加率は年々下がるものの、入院患者数は県全体で2040年にピークが見込まれる。
- 医療圏別では、2030年までは、9医療圏のうち6医療圏において増加が見込まれる。（2030年時点で減少見込みの医療圏は、二戸、宮古、釜石）



脳梗塞の入院受療率（人口10万対）



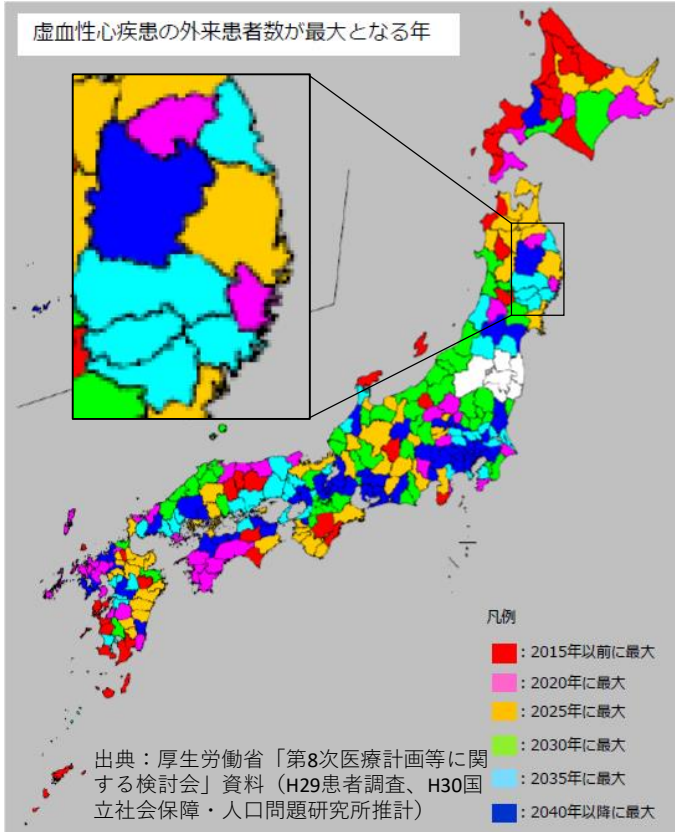
1日あたり入院患者数増減率



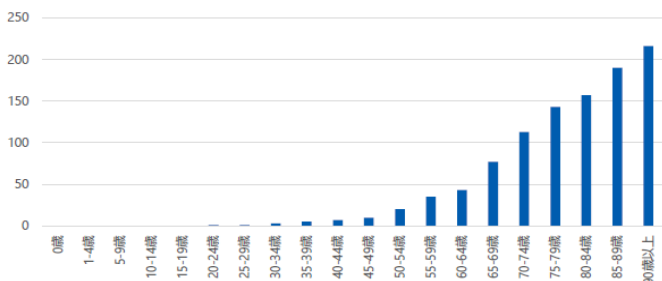
【参考】本県の医療需要の変化⑤ (1日あたり 虚血性心疾患外来患者数推計)

- 年齢別の入院受療率（高齢者ほど高い）と人口推計から将来の入院患者数を推計すると、全国の入院患者数のピークは2040年以降と見込まれる。
- 全国に先行して高齢者人口が減少する岩手県においても、増加率は年々下がるものの、入院患者数は県全体で概ね2035年にピークが見込まれる。
- 医療圏別では、2030年までは、9医療圏のうち5医療圏において増加が見込まれる。（2030年時点で減少見込みの医療圏は、宮古、釜石）

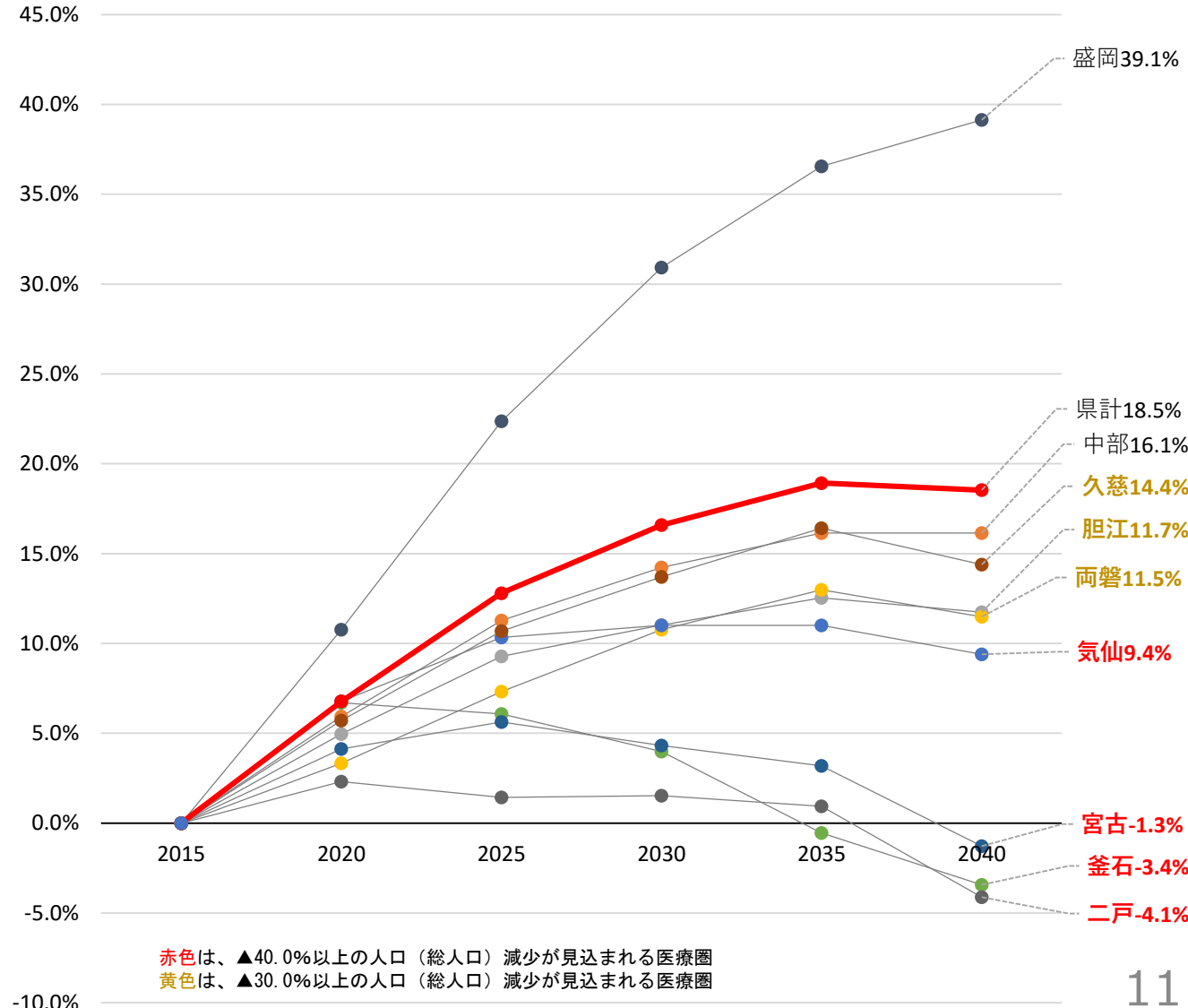
虚血性心疾患の外来患者数が最大となる年



虚血性心疾患の外来受療率（人口10万対）



1日あたり入院患者数増減率



【参考】本県の入院受療動向①（令和元年度 全体）

- 中部、気仙、久慈、二戸においては、**圏域内での完結率が7割以下**の状況。
- **中部、二戸**においては、**盛岡に全体患者の約2割が流出**している状況。
- **久慈**においては、**2割以上が県外に流出**している状況。
- 両磐、気仙、二戸においては、**一定程度が県外に流出**している状況。

<令和元年度 入院受療動向調査 岩手県健康国保課調べ>

※ 国民健康保険+後期高齢者医療制度+全国健康保険協会（協会けんぽ）全レセプトの取り込みデータ

施設所在地 患者住所地	盛岡	中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外
盛岡	96.2	1.1	0.1	0.3	—	0.1	0.1	0.1	0.4	1.6
中部	22.5	69.4	3.0	0.5	0.2	1.4	0.1	—	0.1	2.6
胆江	7.6	7.5	77.3	4.0	0.1	0.1	0.1	—	—	3.2
両磐	4.6	1.1	6.9	75.9	0.1	0.1	—	—	—	11.3
気仙	17.8	3.7	1.3	1.0	59.8	3.4	0.3	—	—	12.5
釜石	11.8	1.8	0.2	0.1	2.0	78.7	2.8	—	—	2.5
宮古	19.8	0.8	0.2	—	0.1	3.1	71.9	2.6	—	1.5
久慈	7.9	0.4	—	0.2	—	0.3	0.2	67.3	1.9	21.8
二戸	25.0	0.4	0.2	—	0.1	—	0.2	0.7	60.4	13.0

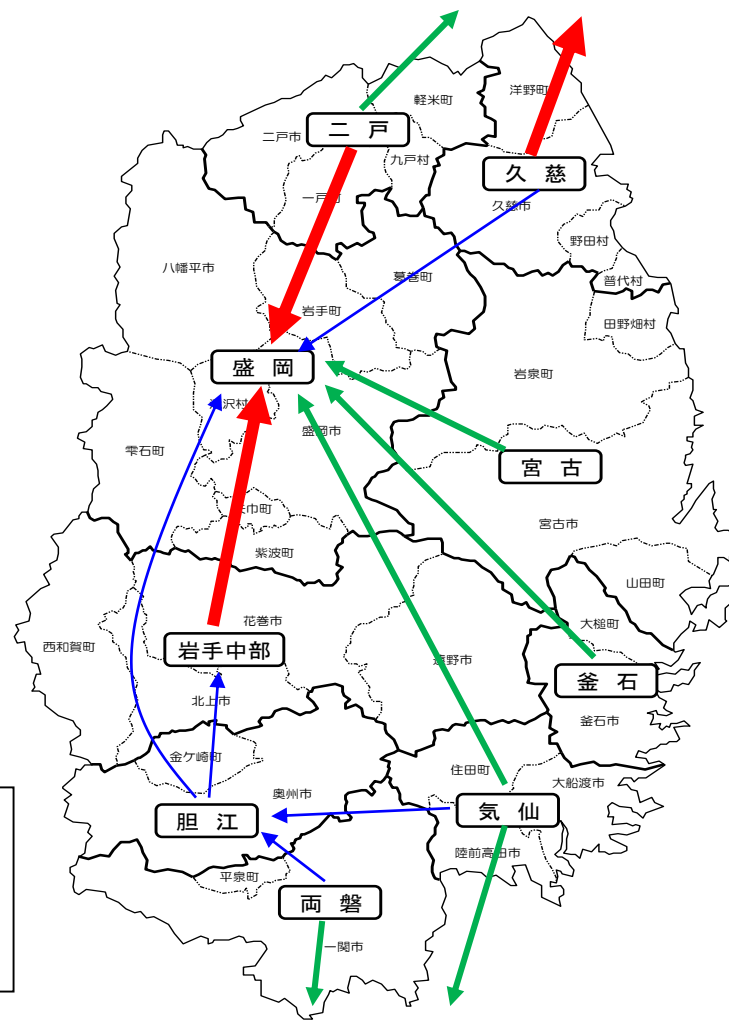
令和元年 岩手県人口（約1,227千人）の
約70%の入院・外来受療データ
（いわゆる“医療版ビッグデータ”）

【凡例】

5%以上：→

10%以上：→

20%以上：→



【参考】本県の入院受療動向②（令和元年度 がん）

- **がん（入院）**については、
 - ・中部、気仙、釜石、宮古、二戸においては、**2～3割が盛岡**へ流出している状況。
 - ・**両磐、久慈**においては、**1～2割が県外**へ流出している状況。（久慈は約3割が県外へ）
- **がん（外来）**については、
 - ・盛岡、胆江、釜石においては、**概ね圏域内完結**している状況。
 - ・中部、気仙、宮古、二戸においては、**2～3割が盛岡**へ流出している状況。
 - ・**気仙**においては、**2割が県外流出**、**久慈**においては、**3割強が県外流出**している状況。

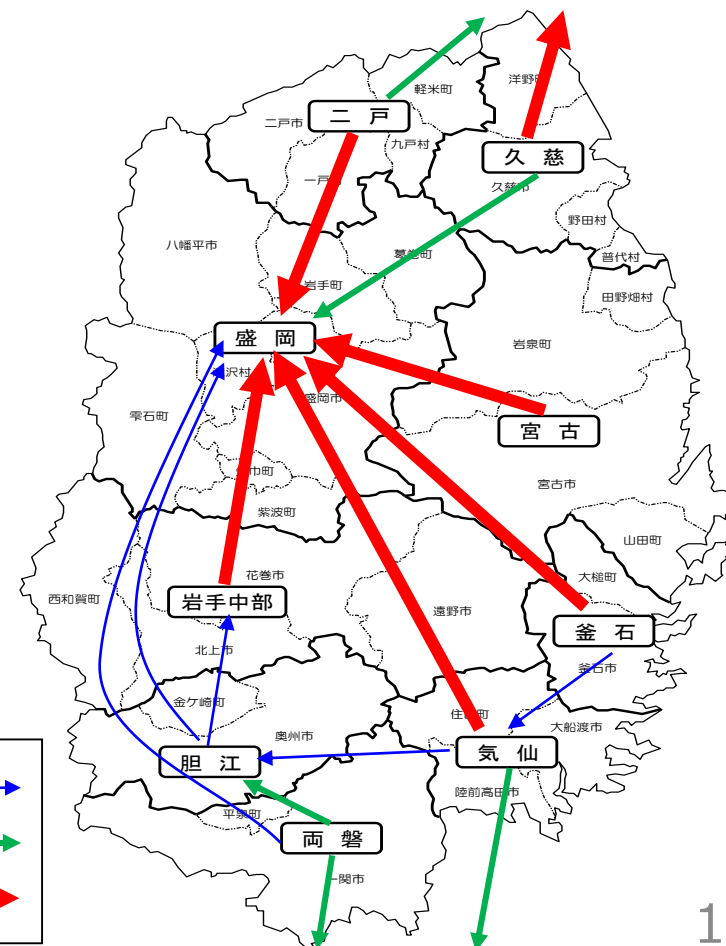
＜令和元年度 入院受療動向調査 岩手県健康国保課調べ＞

※1 主病名が「悪性新生物（腫瘍）（ICD-10コード：C00-C97）」のレセプト集計値

※2 国民健康保険＋後期高齢者医療制度＋全国健康保険協会（協会けんぽ）全レセプトの取り込みデータ

施設所在地 患者住所地	盛岡	中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外
盛岡	97.0	0.3	0.1	－	－	－	－	0.1	0.2	2.2
中部	31.9	62.6	1.9	0.1	0.2	0.5	－	－	－	2.8
胆江	11.1	7.5	74.3	1.1	－	－	－	－	－	6.0
両磐	8.0	1.7	12.5	60.8	－	－	－	－	－	17.0
気仙	27.5	3.0	1.5	0.2	52.0	0.5	－	－	－	15.4
釜石	28.8	2.8	－	－	6.7	56.9	2.7	－	－	2.1
宮古	36.5	0.4	0.3	－	－	3.5	54.1	1.9	0.1	3.3
久慈	19.2	0.1	－	0.1	－	0.1	0.2	50.4	0.4	29.4
二戸	29.4	0.1	－	0.3	－	－	－	0.1	55.2	14.9

【凡例】
 5%以上：→
 10%以上：→
 20%以上：→



【参考】本県の入院受療動向③（令和元年度 脳血管疾患）

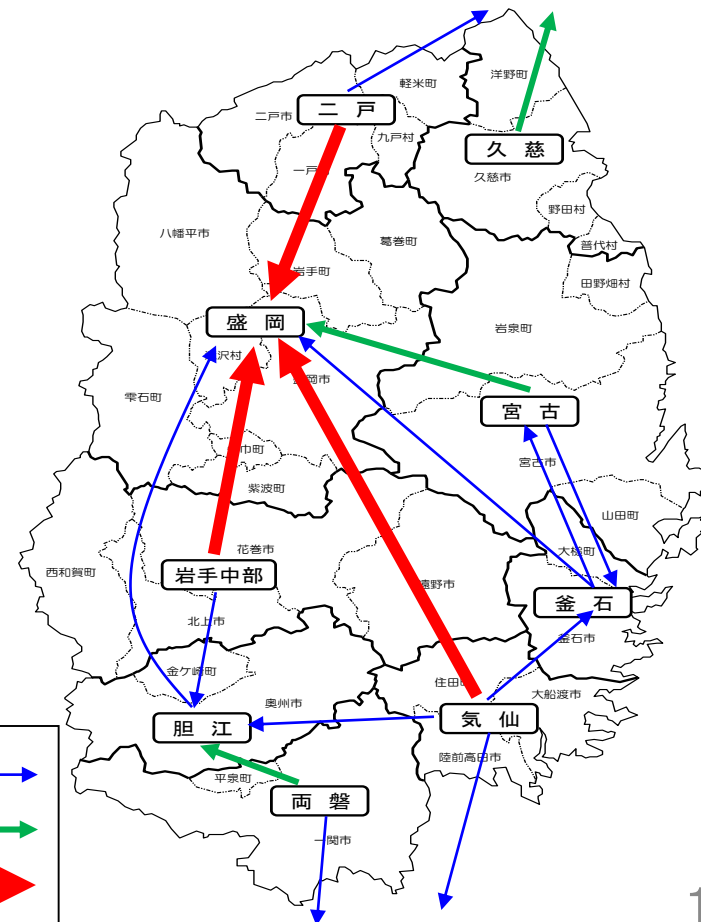
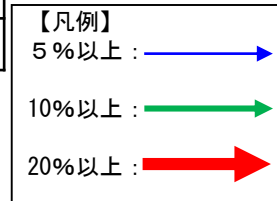
- **脳血管疾患（入院）**については、
 - ・盛岡、胆江、釜石においては、圏域内完結率が約8割の状況。
 - ・中部、気仙、宮古、二戸においては、盛岡に患者が多く流出している状況。（**特に気仙、二戸では4割が流入**）
 - ・胆江は、**両磐から一定程度の患者**を受け入れている状況。
- **脳血管疾患（外来）**については、
 - ・**全圏域で8割強～9割の圏域内完結**の状況。（久慈においては、県外へ1割強が流出）

<令和元年度 入院受療動向調査 岩手県健康国保課調べ>

※1 主病名が「脳血管疾患（ICD-10コード：I60-I69）」のレセプト集計値

※2 国民健康保険+後期高齢者医療制度+全国健康保険協会（協会けんぽ）全レセプトの取り込みデータ

施設所在地 患者住所地	盛岡	中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外
盛岡	97.9	0.8	-	-	-	-	-	0.1	0.1	1.0
中部	24.5	66.0	6.1	0.1	-	2.2	0.1	-	0.1	0.8
胆江	7.7	4.0	86.6	0.4	0.1	-	0.2	-	-	1.0
両磐	4.1	0.3	12.2	75.2	-	0.5	-	-	-	7.7
気仙	40.0	1.0	0.3	-	43.4	8.1	1.7	-	-	5.6
釜石	10.3	0.1	0.1	-	0.5	82.0	6.5	-	-	0.5
宮古	19.9	0.1	0.1	-	-	5.5	72.0	0.8	0.1	1.6
久慈	4.2	0.1	-	-	-	-	-	79.9	0.6	15.2
二戸	43.0	0.2	-	-	-	-	0.5	0.1	48.2	8.1



【参考】本県の入院受療動向④（令和元年度 心疾患）

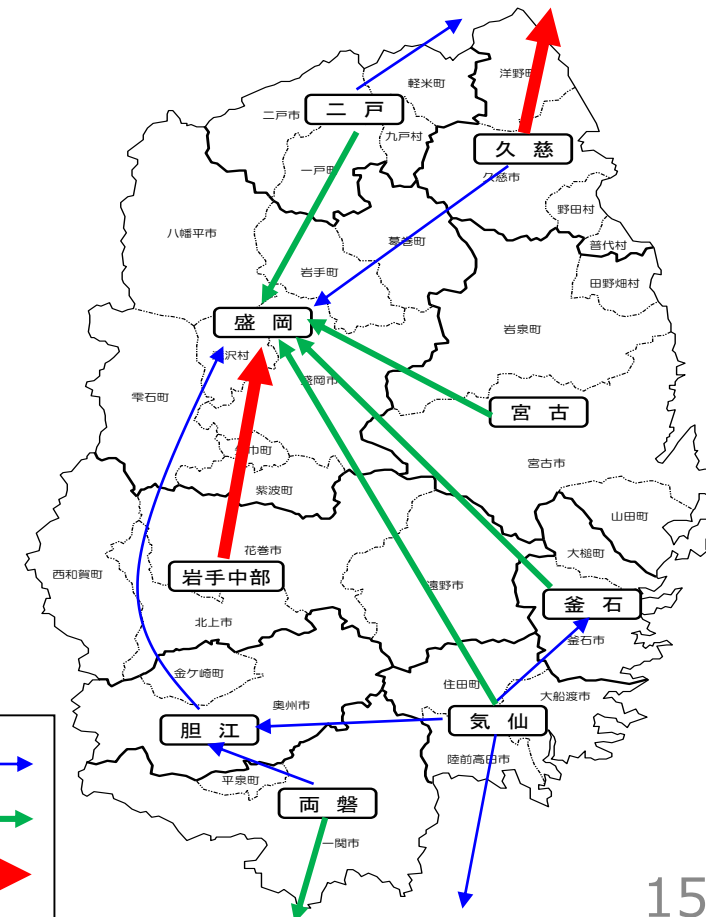
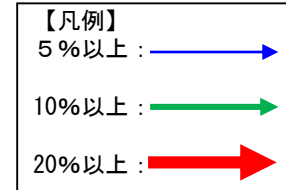
- **心疾患（入院）**については、
 - ・盛岡、中部、胆江、釜石、久慈、二戸においては、圏域内完結率が7～9割の状況。
 - ・中部、宮古においては、盛岡に約2割の患者が流出している状況。
 - ・**久慈**においては、**県外に約2割の患者が流出**している状況。
- **心疾患（外来）**については、
 - ・**全圏域で8割強～9割の圏域内完結**の状況。（久慈においては、県外へ1割強が流出）

＜令和元年度 入院受療動向調査 岩手県健康国保課調べ＞

※1 主病名が「慢性リウマチ性心疾患（ICD-10コード：I05-I09）」及び「その他の心疾患（I01、I02.0、I30-I52）」のレセプト集計値

※2 国民健康保険+後期高齢者医療制度+全国健康保険協会（協会けんぽ）全レセプトの取り込みデータ

施設所在地 患者住所地	盛岡	中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外
盛岡	97.5	0.4	0.1	－	－	－	0.1	0.2	0.3	1.5
中部	23.2	71.7	1.5	－	0.2	0.9	－	－	－	2.4
胆江	7.7	4.0	84.8	0.7	0.1	－	－	－	－	2.7
両磐	5.5	0.9	7.8	66.8	－	－	－	－	－	19.1
気仙	15.2	1.9	1.3	－	68.0	5.1	－	－	－	8.4
釜石	16.7	0.8	0.1	－	1.9	78.0	0.5	－	－	1.9
宮古	22.0	－	0.1	－	－	2.2	69.8	3.1	－	2.9
久慈	7.2	－	－	－	－	－	0.7	71.3	1.1	19.7
二戸	14.3	0.1	0.2	－	－	－	－	－	77.7	7.8



【参考】本県の外来受療動向（令和元年度 全体）

- 外来については、**全圏域で8割強～9割の圏域内完結**の状況。
- 久慈においては、**1割強が県外に流出**している状況

<令和元年度 外来受療動向調査 岩手県健康国保課調べ>

※ 国民健康保険+後期高齢者医療制度+全国健康保険協会（協会けんぽ）全レセプトの取り込みデータ

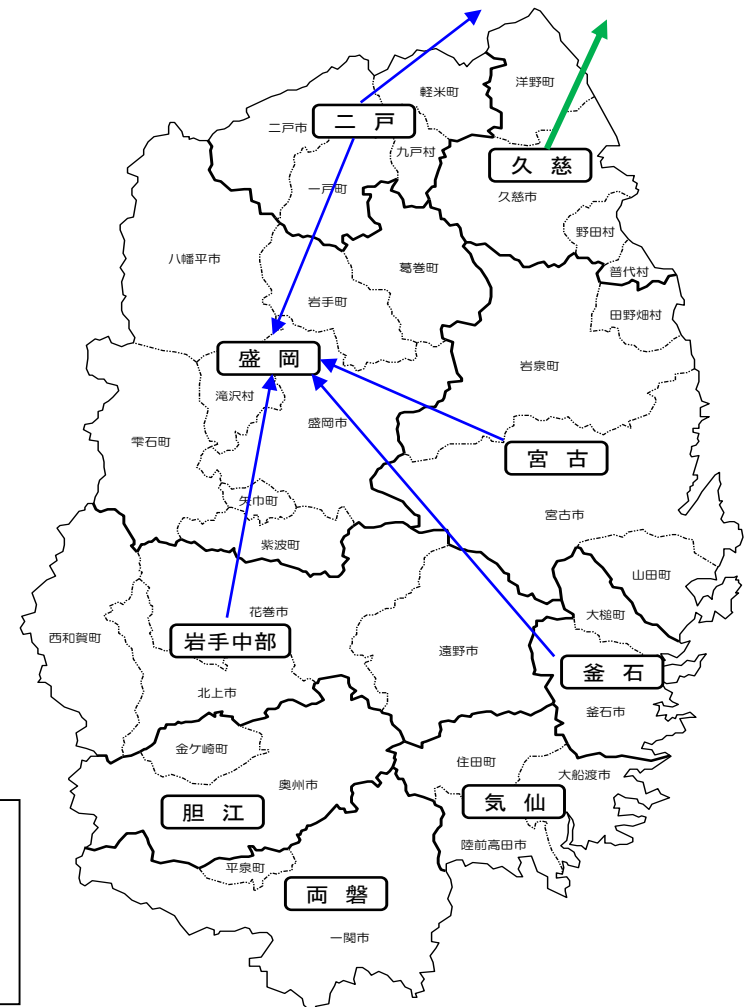
施設所在地 患者住所地	盛岡	中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外
盛岡	97.9	0.5	0.1	—	—	—	0.1	0.1	0.3	0.9
中部	6.2	91.6	0.7	0.1	0.1	0.2	—	—	—	1.1
胆江	2.0	4.7	90.9	1.4	—	—	—	—	—	0.9
両磐	1.3	0.4	3.5	89.9	0.1	—	—	—	—	4.8
気仙	4.2	2.2	0.4	0.4	87.9	0.7	—	—	—	4.1
釜石	5.1	2.5	0.1	0.1	1.5	87.5	1.8	—	—	1.5
宮古	9.8	0.3	—	—	0.1	2.2	84.5	2.0	—	1.0
久慈	2.7	0.1	—	—	—	—	0.3	79.8	0.9	16.2
二戸	9.2	0.1	—	—	—	—	—	0.2	80.6	9.8

【凡例】

5%以上：→

10%以上：→

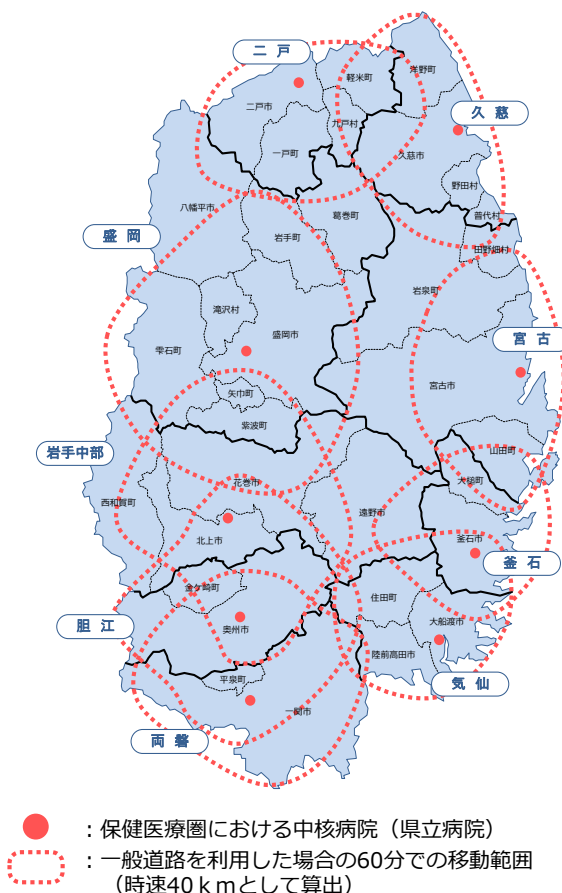
20%以上：→



【参考】復興道路整備による効果①（概要）

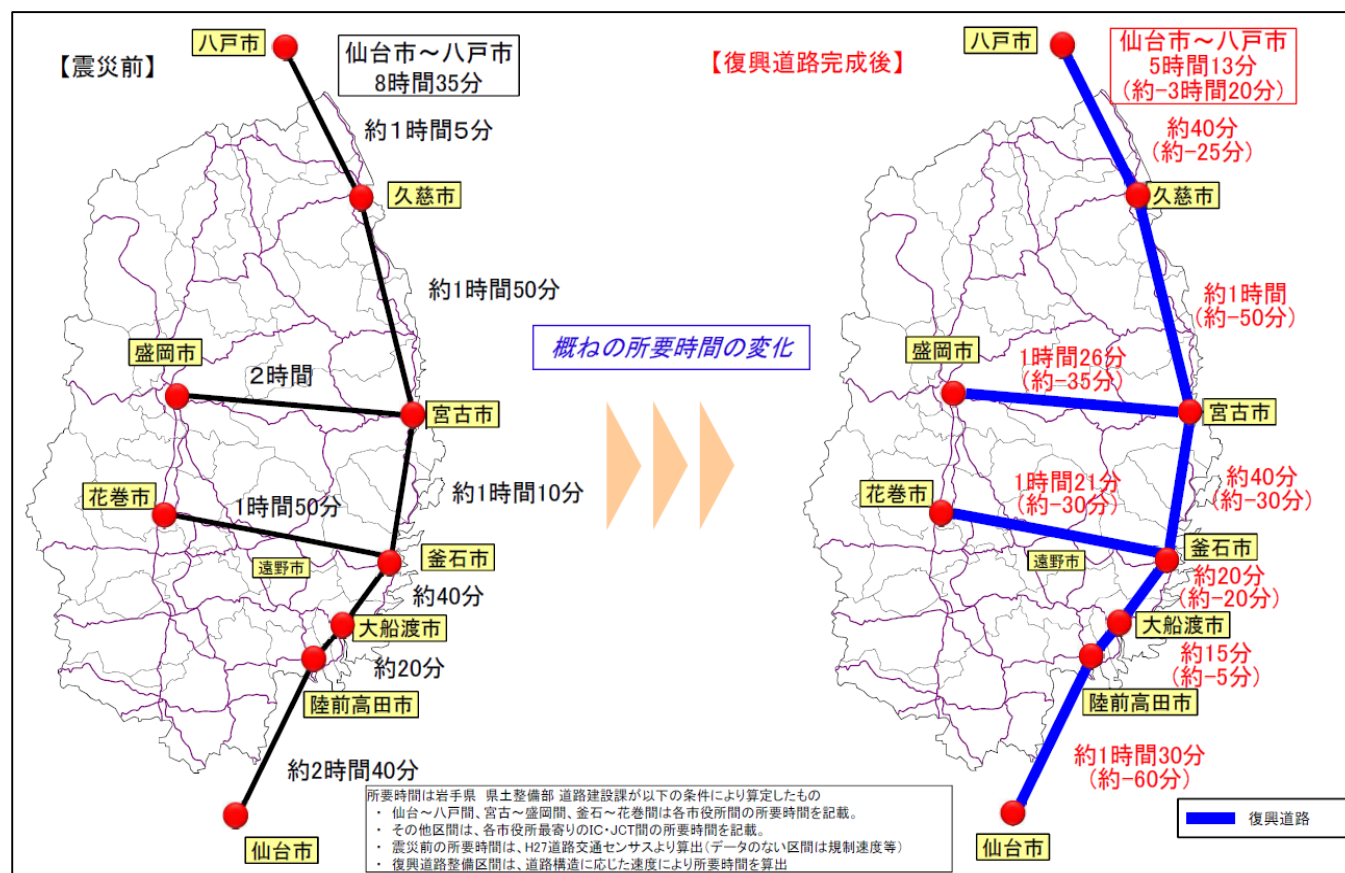
- 現行計画における二次保健医療圏域内では、一部の地域を除き、**一般道路を利用して概ね1時間以内**で移動可能。
- 復興道路の整備により、特に**沿岸圏域の間、内陸と沿岸の一部圏域の間で移動時間が短縮**。

＜二次保健医療圏内の移動所要時間（現行計画）＞



資料：岩手県保健福祉企画室調べ

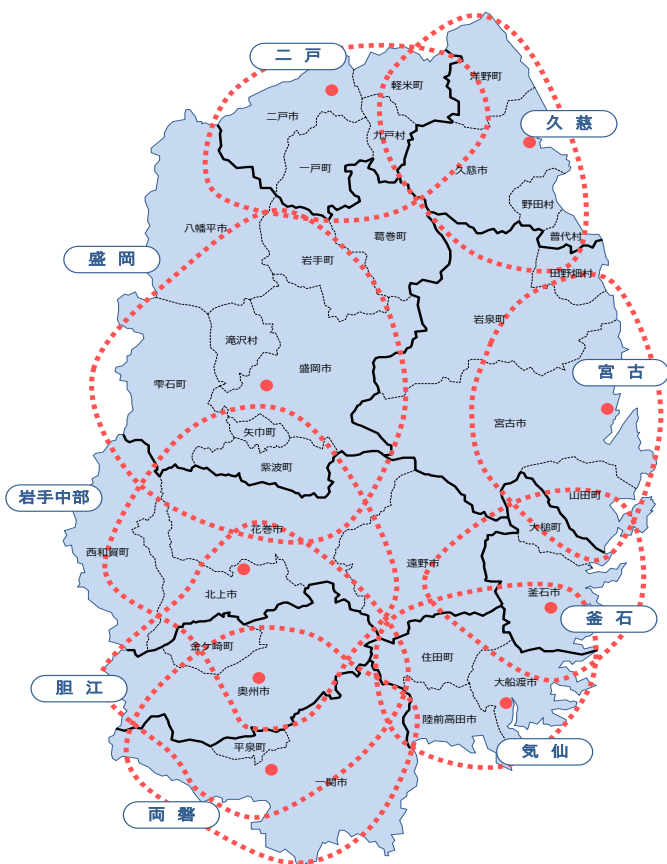
＜復興道路の整備効果（岩手県県土整備部資料）＞



【参考】復興道路整備による効果②（保健医療圏域内の移動所要時間）

＜二次保健医療圏内の移動所要時間（現行計画）＞

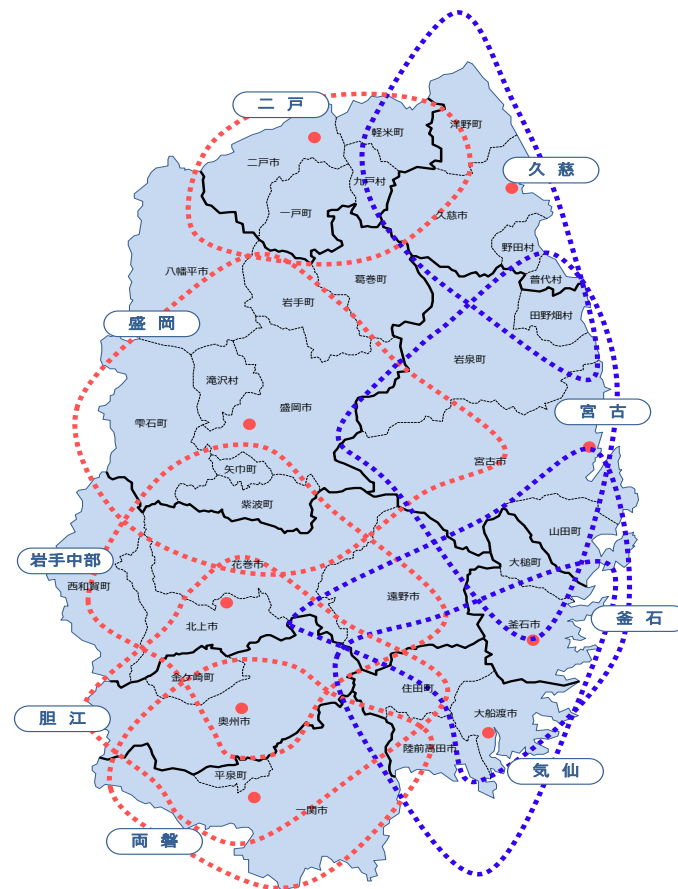
※復興道路整備効果 反映前



- : 保健医療圏における中核病院（県立病院）
- : 一般道路を利用した場合の60分での移動範囲（時速40kmとして算出）
- ＜資料：保健福祉企画室調べ＞

＜二次保健医療圏内の移動所要時間（次期計画記載見込み）＞

※復興道路整備効果 反映後



- : 保健医療圏における中核病院（県立病院）
- : 一般道路（時速40km）を利用した場合の60分での移動範囲（一部圏域は復興道路（時速70km）も加味して算出）
- : 復興道路・一般道路を利用した場合の60分での移動範囲（復興道路：時速70km、一般道路は40kmで算出）
- ＜資料：医療政策室調べ＞

【参考】直近3か年（R元年～R3年）の救急搬送状況①（復興防災部消防安全課調べ）

本部略称	主な状況
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立中央と盛岡赤十字、高度救命救急センターで全体搬送の約75%を占めている。 （県立中央は、循環器疾患での搬送の他、幅広く受け入れている傾向。高度救命救急センターは、重症外傷、精神科救急の搬送が多い傾向。） ○ 管外では、かづの厚生病院（秋田県）への搬送が全体の約半数を占めている。（八幡平消防署において搬送） ○ 消防からは、夜間帯に発生した一般負傷の傷病者に対応できる医療機関に限られるため、受入先決定に時間を要するケースが年々増加傾向となっている旨報告あり。
花巻	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、総合花巻が、全体搬送の約6割を占めている。 ○ 管外では、県立中部が、全体搬送の約8割を占めている。
北上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、全体搬送のうち、県立中部が約65%、北上済生会が約25%を占めている。 （県立中部は、循環器疾患での搬送が多い傾向。北上済生会は、小児、整形外科の搬送が多い傾向） ○ 管外では、急病による搬送のうち、総合花巻が約23%、県立胆沢が約18%、県立中央が約10%を占めている ほか、岩手医大や高度救命救急センターへの搬送は、転院搬送がほとんどの状況。 ○ 西和賀消防署管内では平鹿総合病院（秋田県）への急病による管外搬送が多い傾向 ○ 主な管外搬送に係る平均所要時間では、県立胆沢への搬送に約60分要している。 ○ 消防からは、中部医療圏内では20年前と比較し、統合、閉鎖等による救急告示医療機関及び病院群輪番制病院が減少（▲3医療機関）しており、特に夜間、休日の搬送に苦慮している旨報告あり。
奥州金ケ崎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、全体搬送のうち、県立胆沢が約65%、奥州市立水沢が約14%、県立江刺が約9%を占めている。 （県立胆沢は、循環器疾患での搬送が多い傾向。奥州市立水沢は、感染症指定医療機関であり、コロナ禍においては、検査や入院に対応している。） ○ 管外では、県立中部が全体の約35%を占めているほか、北上済生会が約17%、県立磐井が14%を占めている。 ○ 主な管外搬送に係る平均所要時間では、県立中部への搬送に約55分、県立磐井への搬送に約65分要している。 ○ 消防からは、胆江医療圏内で周産期医療機関が不在となっていることによる、中部及び両磐への救急搬送増加や受入態勢の構築に課題がある旨報告あり。

【参考】直近3か年（R元年～R3年）の救急搬送状況②（復興防災部消防安全課調べ）

本部略称	主な状況
一関	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、全体搬送のうち、県立磐井が約50%、県立千厩が約25%を占めている。 ○ 管外では、全体搬送のうち、県立胆沢が約30%を占めているほか、宮城県の栗原市立若柳病院や気仙沼市立病院、仙台厚生病院への搬送もある。（仙台厚生病院へは、転院搬送が大半） ○ 主な管外搬送に係る平均所要時間では、県立胆沢への搬送に約76分となっている。
陸前高田	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立高田が全て受け入れている。（年間で約50件） ○ 管外では、全体搬送のうち、県立大船渡が約98%を占めている。（残りは、ほとんどがかかりつけ病院である、気仙沼市立病院（宮城県）への転院搬送）
大船渡	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立大船渡が全て受け入れている。（年間で約1,700件） ○ 管外では、県立遠野病院への急病による搬送（住田町民）があるものの、ほとんどが岩手医大や県立中央への転院搬送を占めている。
釜石大槌	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立釜石が全体搬送の約76%を占めている。（残りは、せいてつ記念病院） ○ 管外では、R元からR2までは、転院搬送が全体搬送の多くを占めている状況。（<u>県立大船渡が約40%、岩手医大が約25%、高度救命救急センターが約18%</u>） ○ 令和3年からは、県立大船渡への搬送について、急病による搬送の増加により、転院搬送も含めると、管外への全体搬送の約80%を占めている。 ○ 県立大船渡への管外搬送に係る平均所要時間は、約64分要している。
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立宮古が全体搬送の約90%を占めている。（残りは、済生会岩泉病院） ○ 管外では、全体搬送のうち、県立久慈が約33%を占めているほか、県立中央への急病による搬送も約20%を占めている。 ○ また、岩手医大や高度救命救急センターへの転院搬送もそれぞれ約15%となっている。 ○ 主な管外搬送に係る平均所要時間では、県立中央に約126分、岩手医大や高度救命救急センターには約138分要している。

【参考】直近3か年（R元年～R3年）の救急搬送状況③（復興防災部消防安全課調べ）

本部略称	主な状況
遠野	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立遠野が全て受け入れている。（年間で約760件） ○ 管外では、全体搬送のうち、県立中部が約40%、県立中央が約23%を占めている。（県立中部は、循環器系疾患及び消化器系疾患での搬送が多い傾向。県立中央は、循環器系疾患疑いの搬送が多い傾向。） ○ 主な管外搬送に係る平均所要時間では、県立中部に約45分、県立中央に約60分要している。
久慈	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、県立久慈が約95%受け入れている。（年間で約1,630件） ○ 管外では、全体搬送のうち、青森県の八戸市民病院が約54%、八戸赤十字病院が約24%を占めている。（管外搬送（R元～R3）全体数の415件のうち、八戸市民が222件、八戸赤十字が98件） ○ 残りは、岩手医大や県立二戸への転院搬送。 ○ 八戸市民病院及び八戸赤十字病院への管外搬送に係る平均所要時間は、約58分要している。
二戸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内では、全体搬送のうち、県立二戸が約70%、県立一戸が約13%を占めている。 ○ 管外では、岩手医大や高度救命救急センター、県立中央、八戸市民、八戸赤十字に搬送しており、そのほとんどが転院搬送となっている状況。

【参考】直近3か年（R元年～R3年）の救急搬送状況④（各消防本部別 管内）

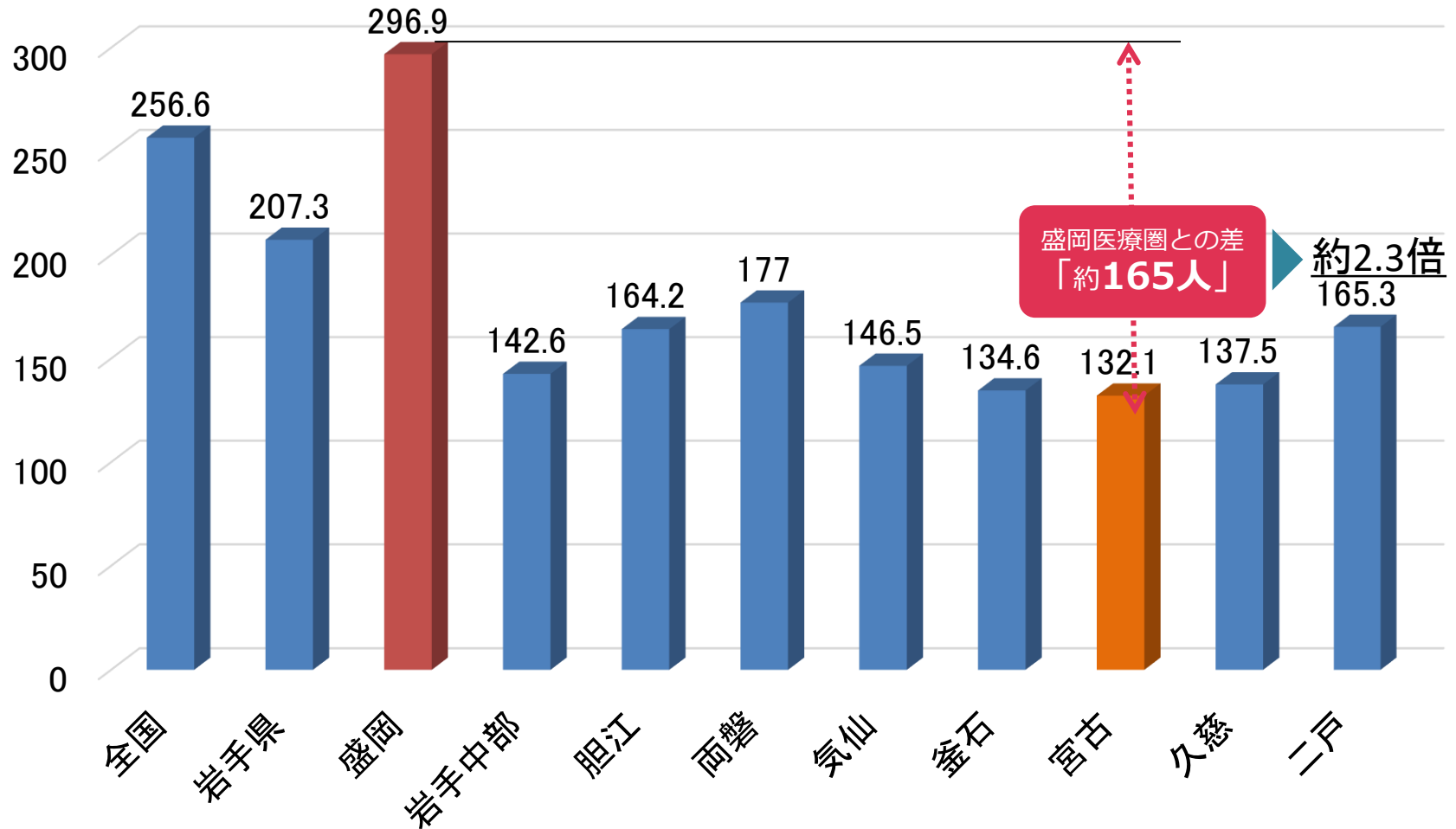
本部略称	搬送件数 (件)	(内訳)											
		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	転院搬送
盛岡	46,749	46	1	9	2,688	429	315	6,015	112	439	30,431	4	6,260
花巻	3,867	6	0	0	313	36	24	762	5	26	2,564	0	147
北上	8,964	10	0	1	630	127	84	1,284	20	65	5,923	1	819
奥州金ヶ崎	14,134	18	2	5	848	188	64	1,945	25	60	9,914	3	1,062
一関	14,827	20	0	4	657	194	102	2,122	19	73	9,844	1	1,791
陸前高田	151	0	0	0	0	0	0	9	0	0	138	0	4
大船渡	5,153	2	0	8	186	55	26	657	7	20	3,964	2	226
釜石大槌	6,068	5	5	9	228	53	31	741	7	38	4,471	3	477
宮古	9,137	8	3	10	315	98	30	1,203	21	45	6,783	0	621
遠野	2,297	3	0	0	119	17	14	289	6	14	1,699	1	135
久慈	5,145	11	0	22	268	70	22	586	11	27	3,903	3	222
二戸	6,173	6	0	1	250	55	26	855	6	28	4,461	0	485
県全体	122,665	135	11	69	6,502	1,322	738	16,468	239	835	84,095	18	12,249

【参考】直近3か年（R元年～R3年）の救急搬送状況⑤（各消防本部別 管外）

本部略称	搬送件数 (件)	(内訳)											
		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	転院搬送
盛岡	287	0	0	0	28	1	6	32	1	1	145	0	73
花巻	6,653	13	0	2	276	72	40	593	2	51	4,048	1	1,555
北上	1,094	4	0	0	74	20	3	96	0	15	327	2	553
奥州金ヶ崎	922	5	0	0	45	27	2	63	2	3	368	1	406
一関	927	1	0	0	35	10	3	62	1	2	288	2	523
陸前高田	2,322	2	0	2	112	39	4	386	3	10	1,583	0	181
大船渡	163	0	0	0	1	1	0	4	0	1	54	1	101
釜石大槌	520	0	0	1	3	3	0	5	1	1	161	1	344
宮古	716	0	0	0	41	6	2	72	0	0	298	0	297
遠野	1,098	0	0	0	35	6	6	63	2	7	360	1	618
久慈	415	2	0	3	23	13	2	45	2	2	238	0	182
二戸	293	1	0	0	8	1	1	6	0	0	45	0	231
県全体	15,410	28	0	8	681	199	69	1,427	14	93	7,915	9	5,064

② 2次医療圏別人口10万人対従事医師数（令和2年）

- 県庁所在地である盛岡市周辺と県央部に医師が集中し、「**県北・沿岸部の医師が少ない**」傾向



「令和2年医師、歯科医師、薬剤師統計」厚生労働省

【参考】県立病院間の診療応援の状況（令和２年度）

○ 県立病院間の診療応援は、令和2年度実績6,932件。

【県立病院間の診療応援件数（令和２年度）】

単位：件

		応援した病院（県立病院間）																										
		中央	大船渡	釜石	宮古	胆沢	磐井	遠野	高田	久慈	江刺	千厩	中部	二戸	一戸	大槌	山田	沼宮内	軽米	大東	花泉	東和	大迫	住田	九戸	紫波	南光	計
応援を受けた病院（県立病院間）	中央					38						3	3		70													114
	大船渡	24		105		21			59	1	99		73															382
	釜石	171	491		73	12		91	2	3			83			227												1,153
	宮古	148		43									6			7	59											263
	胆沢	59						47			79	51	60	1														297
	磐井	45				36			22			46								13								162
	遠野	227	19	10		48							131	10						9			101			15		570
	高田		59	12		48							36							45								200
	久慈										13			392	43													448
	江刺					222							23							21						23		289
	千厩		18	12		24	218				48		23							45							1	389
	中部	24	4		1	22	87					22																160
	二戸	6											1		143				10									160
	一戸	143												115														258
	大槌			121							2																	123
	山田	79		3	199											37												318
	沼宮内	225																								132		357
	軽米	22												118	218													358
	大東	19				24	93		22												10							168
	花泉						3					126																129
	東和	12				30							121															163
	大迫							23																20		49		92
	住田		84																									84
	九戸													139	84				48									271
	紫波	24																										24
	南光																											0
	計	1,228	675	306	273	525	401	161	105	4	241	248	560	775	558	271	59	0	58	133	10	0	101	20	0	219	1	6,932

【参考】医師確保計画の概要

医師確保計画では、令和2年度から令和5年度までを計画期間とし、目標医師数の確保に向けた施策を展開することとしている。

医師の確保の方針

- 県全体の医師数の増加を図ることを方針として必要な対策を講じる。
- 医師の絶対数が少ない沿岸・県北地域を中心とした医師少数区域に奨学金養成医師を計画的に配置。
- 奨学金による医師養成等を通じて、産科及び小児科の医師確保に取り組む。

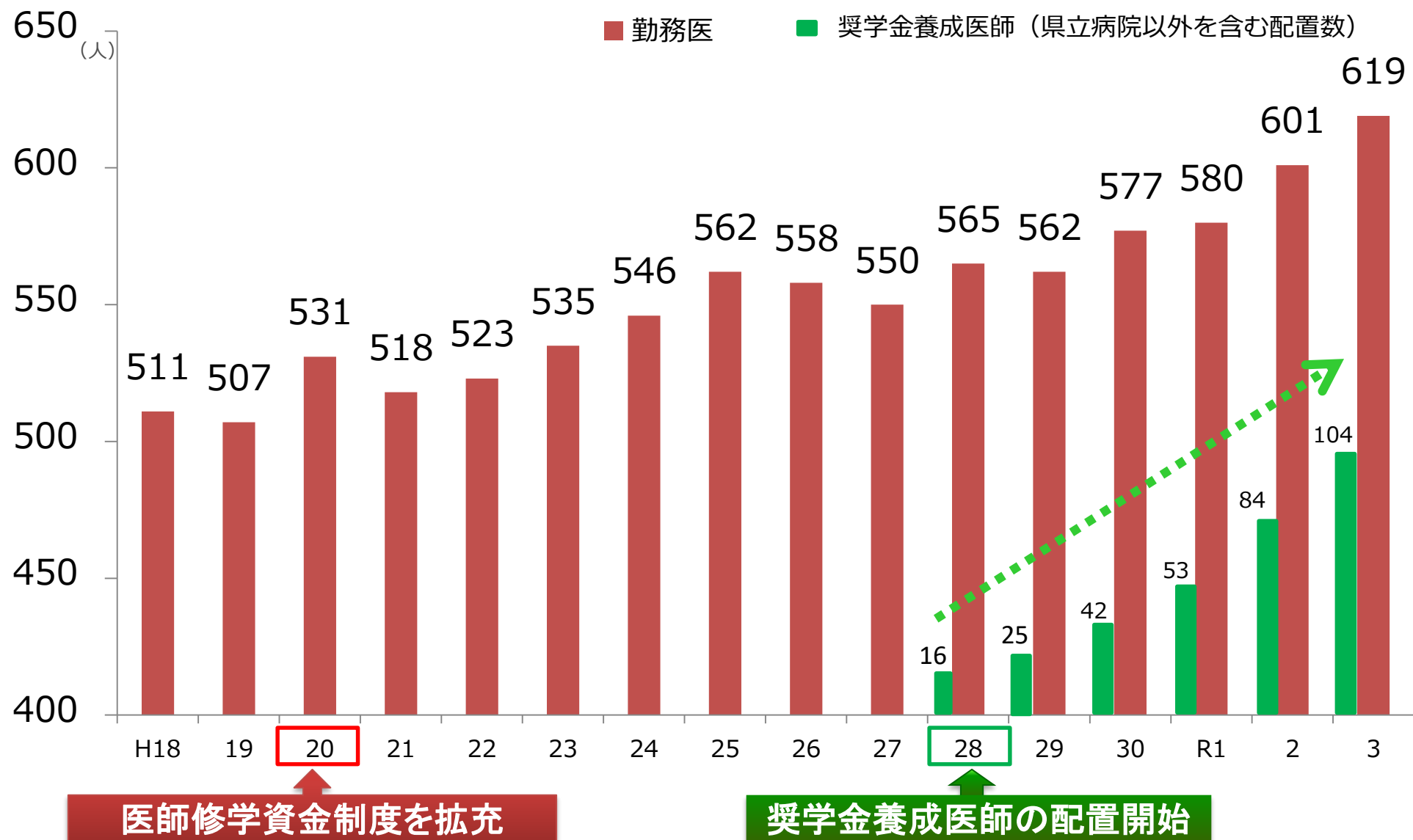
確保すべき医師数の目標（目標医師数）

- 医師偏在指標により、県全体及び盛岡医療圏を除く8医療圏が医師少数区域。
- 県全体及び二次医療圏毎の目標医師数と確保すべき医師数は下表のとおり。

（単位：人）

圏域等	医師偏在指標	区 分	現在医師数(A)	目標医師数(B)	確保すべき医師数(B-A)
岩手県	172.7	医師少数県	2,458	2,817	359
盛岡	234.1	医師多数区域	1,305	1,305	0
岩手中部	133.8	医師少数区域	324	349	25
胆江	136.5	医師少数区域	211	218	7
両磐	134.8	医師少数区域	204	217	13
気仙	153.1	医師少数区域	94	114	20
釜石	119.3	医師少数区域	70	84	14
宮古	113.7	医師少数区域	93	117	24
久慈	151.6	医師少数区域	81	101	20
二戸	154.7	医師少数区域	76	87	11
二次医療圏計			2,458	2,592	134

▶ 県立病院の医師数は、この10年間で**着実に増加**



医師養成の状況（令和5年4月1日見込み）

① 奨学金養成医師の配置調整概要（令和4年度）

	配置	猶予	未定	計
令和5年度	145人	106人	8人	259人

② 配置の内訳（122人）

盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸
28人	19人	9人	12人	9人	11人	13人	9人	12人

③ 診療科の内訳（259人）

消化器内科	循環器内科	整形外科	神経内科	小児科	泌尿器科
35人	24人	19人	13人	13人	13人
産婦人科	外科	麻酔科	皮膚科	脳神経外科	精神科
12人	13人	12人	11人	11人	11人
消化器外科	総合診療科	糖尿病・代謝内科	呼吸器内科	形成外科	救急科
10人	10人	8人	6人	5人	5人
腎臓・リウマチ科	腎・高血圧内科	眼科	血液・腫瘍内科	血液・腫瘍内科	小児外科
4人	3人	3人	3人	3人	2人
病理診断科	耳鼻咽喉科	腎臓内科	腫瘍内科	呼吸器外科	血管外科
2人	2人	1人	1人	1人	1人
放射線診断科	リハビリテーション科	膠原病・アレルギー内科	心臓血管外科	乳腺外科	
1人	1人	1人	1人	1人	

①盛岡医療圏

- 県立病院
 ○ 県立診療所
 ● 市町村立病院
 ○ 市町村立診療所
 ● その他の病院
 ※赤枠は二次救急輪番
 参加病院



【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、358施設
- ・ うち、内科標榜が222施設、外科標榜が55施設
- ・ また、産婦人科標榜が12施設（盛岡⑨、矢巾①、紫波①、岩手①）
- ・ 小児科標榜は、34施設（盛岡②、滝沢③、八幡平②、矢巾③、紫波②、雫石①、岩手①）
- ・ 休日夜間急患センターあり（盛岡市夜間急患診療所）
- ・ 救命救急センターとして、中央病院、岩手医大付属病院（岩手県高度救命救急センター）を指定

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ②岩手中部医療圏

- 岩手中部医療圏では、高度急性期や急性期については県立中部病院などを中心として主に公的病院が担い、回復期や慢性期は主に民間病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 岩手中部医療圏には、基幹病院として中部病院、地域病院として遠野病院、東和病院のほか、大迫地域診療センターが所在している。
- 中部病院は、圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療やがん医療、周産期医療等の高度・専門医療を提供。
- 遠野病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である中部病院と連携しながら入院医療等を提供。救急告示病院として遠野市内を中心に救急患者を受け入れ。遠野市内唯一の透析医療機関として、人工透析を実施。
- 東和病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である中部病院と連携しながら入院医療等を提供。地域に密着した「かかりつけ」医療機関として軽症者の入院患者受け入れ及び地域包括ケア病床への急性期医療後の回復期患者を受け入れ。救急告示病院として旧東和町を中心に救急患者を受け入れ。



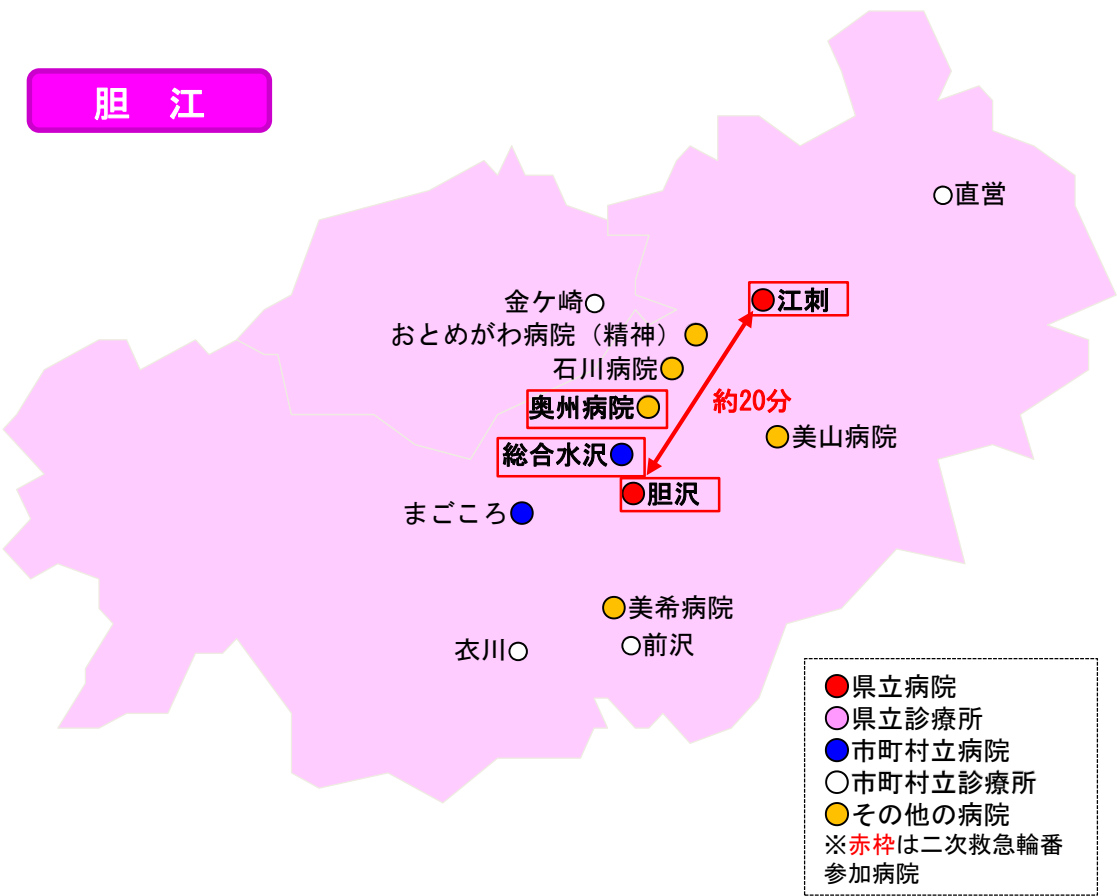
病院における主な診療科の設置状況（令和4年7月医療施設動態調査）	診療科名	病院数	備考
	内科	12	
	呼吸器内科	3	北上②、花巻①
	循環器内科	5	北上②、花巻①、遠野①、西和賀①
	脳神経内科	7	北上③、花巻②、遠野①、西和賀①
	糖尿病内科	1	北上①（中部）
	外科	8	北上②、花巻④、遠野①、西和賀①
	心血管外科	1	北上①（済生会）
	脳神経外科	12	北上②、遠野①
	整形外科	8	北上②、花巻④、遠野①、西和賀①
	産婦人科	4	北上②、遠野①
	小児科	6	北上②、花巻②、遠野①、西和賀①

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、159施設
- ・ うち、内科標榜が107施設、外科標榜が24施設
- ・ また、産婦人科標榜が4施設（北上②、花巻②）
- ・ 小児科標榜は、17施設（北上③、花巻⑤、遠野③、西和賀①）

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ③胆江医療圏

- 胆江医療圏では、高度急性期、急性期については県立胆沢病院を中心として主に公的病院が担い、慢性期は主に民間病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 胆江医療圏には、基幹病院として胆沢病院、地域病院として江刺病院が所在している。
- 胆沢病院は、圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療やがん医療等の高度・専門医療を提供。
- 江刺病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である胆沢病院をはじめとした他の医療機関、施設と連携しながら入院医療等を提供。旧江刺市内唯一の透析医療機関として、人工透析を実施。在宅医療として訪問診療、往診、看取りを実施。地域包括ケア病床を稼働し、急性期医療後の回復期患者等を受け入れ。



病院における主な診療科の設置状況(令和4年7月医療施設動態調査)	診療科名	病院数	備考
	内科	8	おとめがわ(精神)のみ診療科なし
	呼吸器内科	1	胆沢
	循環器内科	6	おとめがわ(精神)、美山、美希は診療科なし
	脳神経内科	2	総合水沢、胆沢
	糖尿病内科	1	奥州
	外科	8	おとめがわ(精神)のみ診療科なし
	心臓血管外科	1	胆沢
	脳神経外科	3	胆沢、江刺、奥州
	整形外科	8	おとめがわ(精神)のみ診療科なし
	産婦人科	3	胆沢、江刺、総合水沢
	小児科	6	奥州、おとめがわ(精神)、美山、は診療科なし

- 【その他】
- ・ 圏域内の一般診療所数については、108施設
 - ・ うち、内科標榜が73施設、外科標榜が20施設
 - ・ また、産婦人科標榜が2施設
 - ・ 小児科標榜は、10施設
 - ・ 休日夜間急患センターあり(奥州金ヶ崎休日診療所、夜間診療所)

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ④両磐医療圏

- 両磐医療圏では、高度急性期、急性期については県立磐井病院を中心として主に公的病院や民間病院が担い、回復期や慢性期は主に公的病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 両磐医療圏には、基幹病院として磐井病院、地域病院として千厩病院、大東病院が所在しているほか、花泉地域診療センターが所在している。また、南光病院は、県南部における精神医療の拠点。
- 磐井病院は、圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療やがん医療、周産期医療等の高度・専門医療を提供。
- 千厩病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である磐井病院と連携しながら入院医療等を提供。救急告示病院として救急患者を受け入れ。旧東磐井郡唯一の透析医療施設として、人工透析を実施。
- 大東病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である磐井病院と連携しながら高齢者を中心とした入院医療等を提供。在宅療養支援病院として、在宅医療において積極的に役割を担っている。
- 南光病院は、常時対応型精神科救急医療施設として、県南圏域を中心に24時間体制で精神科救急患者を受け入れ。

両 磐

国立病院機構岩手病院
一関病院
昭和病院
西城病院

○猿沢

●大東

約40分

約20分

約30分

●ひがしやま病院

約20分

約20分

●磐井

●南光（精神）

約20分

○室根

●花泉

●千厩

●藤沢

- 県立病院
- 県立診療所
- 市町村立病院
- 市町村立診療所
- その他の病院
- ※赤枠は二次救急輪番参加病院

病院医における主な診療科の設置状況（令和4年7月医療施設動態調査）

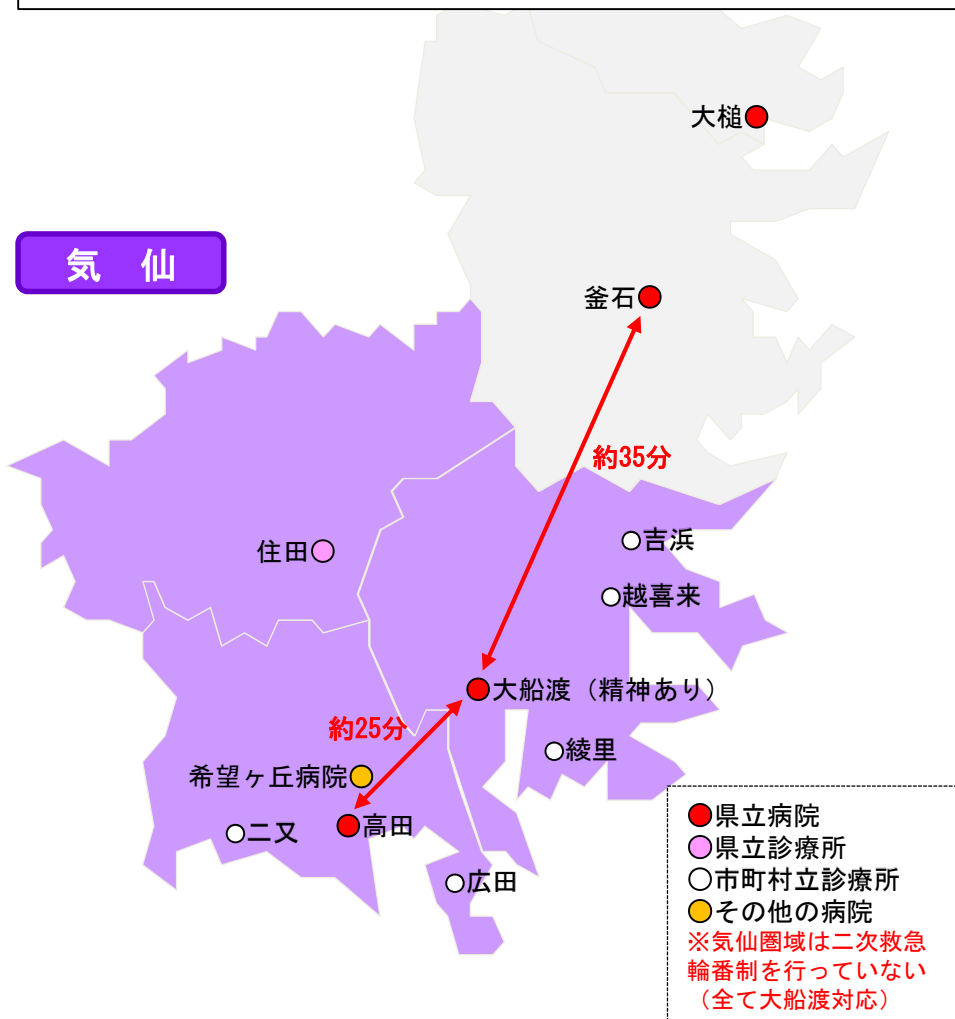
診療科名	病院数	備考
内科	10	南光（精神）のみ診療科なし
呼吸器内科	6	南光（精神）、大東、藤沢、千厩は診療科なし
循環器内科	6	南光（精神）、一関、大東、藤沢は診療科なし
脳神経内科	6	南光（精神）、一関、昭和、藤沢は診療科なし
糖尿病内科	—	診療科なし
外科	8	南光（精神）、一関、昭和、ひがしやまは診療科なし
心臓血管外科	1	磐井
脳神経外科	4	岩手、磐井、一関、千厩
整形外科	5	磐井、一関、大東、藤沢、千厩
産婦人科	3	磐井、一関、千厩
小児科	5	岩手、磐井、昭和、藤沢、千厩

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、90施設
- ・ うち、内科標榜が67施設、外科標榜が15施設
- ・ また、産婦人科標榜が2施設
- ・ 小児科標榜は、11施設

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ⑤気仙医療圏

- 気仙医療圏では、高度急性期、急性期については県立大船渡病院を中心として主に公的病院が担い、慢性期については主に民間病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 気仙医療圏には、基幹病院として大船渡病院、地域病院として高田病院のほか、住田地域診療センターが所在している。
- 大船渡病院は、圏域の基幹病院及び救命救急センターとしての機能を担い、三次救急医療やがん医療、周産期医療等の高度・専門医療を提供。
- 高田病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である大船渡病院と連携しながら高齢者を中心とした入院医療等を提供。



病院における主な診療科の設置状況（令和4年7月医療施設動態調査）	診療科名	病院数	備考
	内科	3	
	呼吸器内科	1 大船渡	
	循環器内科	1 大船渡	
	脳神経内科	2 大船渡、希望ヶ丘	
	糖尿病内科	－ 診療科なし	
	外科	2 大船渡、高田	
	心臓血管外科	－ 診療科なし	
	脳神経外科	1 大船渡	
	整形外科	2 大船渡、高田	
	産婦人科	1 大船渡	
	小児科	2 大船渡、高田	

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、37施設
- ・ うち、内科標榜が29施設、外科標榜が7施設
- ・ また、産婦人科標榜している施設はなし
- ・ 小児科標榜は、2施設（大船渡②）
- ・ 救命救急センターとして、大船渡病院を指定

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ⑥釜石医療圏

- 釜石医療圏では高度急性期や急性期は主に県立釜石病院が担い、回復期は主に民間病院が、慢性期については公立・民間の病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 釜石医療圏には、基幹病院として釜石病院、地域病院として大槌病院が所在している。
- 釜石病院は、圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療やがん医療等の高度・専門医療を提供。
- 大槌病院は、圏域の地域病院として、基幹病院と連携しながら入院医療等を提供。大槌町との連携による健康教室等への参画により、糖尿病をはじめとした生活習慣病の治療と予防にも注力。



病院における主な診療科の設置状況（令和4年7月医療施設動態調査）	診療科名	病院数	備考
	内科	5	
	呼吸器内科	－	診療科なし
	循環器内科	1	釜石
	脳神経内科	2	釜石、国立釜石
	糖尿病内科	－	診療科なし
	外科	3	釜石、大槌、せいてつ
	心臓血管外科	1	釜石
	脳神経外科	1	釜石
	整形外科	3	釜石、大槌、せいてつ
	産婦人科	1	釜石
	小児科	2	釜石、国立釜石

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、26施設
- ・ うち、内科標榜が19施設、外科標榜が4施設
- ・ また、産婦人科標榜が1施設（釜石①）
- ・ 小児科標榜は、5施設（釜石②、大槌③）

- 宮古医療圏では高度急性期や急性期は主に県立宮古病院を中心として主に公的病院が担い、回復期は主に民間病院が、慢性期は公的病院や民間病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 宮古医療圏には、基幹病院として宮古病院、地域病院として山田病院が所在している。
- 宮古病院は、圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療やがん医療、周産期医療等の高度・専門医療を提供。
- 山田病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である宮古病院と連携しながら入院医療等を提供。山田町内を中心に訪問診療及び訪問看護を実施。山田町と連携した健康教室（出前健康講座、糖尿病重症化・合併症予防教室等）を開催。

宮古



病院における主な診療科の設置状況（令和4年7月医療施設動態調査）	診療科名	病院数	備考
	内科	6	
	呼吸器内科	1 宮古	
	循環器内科	1 宮古	
	脳神経内科	2 宮古、山口	
	糖尿病内科	— 診療科なし	
	外科	3 宮古、山田、済生会岩泉	
	心臓血管外科	1 宮古	
	脳神経外科	2 宮古、済生会岩泉	
	整形外科	3 宮古、山田、済生会岩泉	
	産婦人科	1 宮古	
	小児科	3 宮古、山田、済生会岩泉	

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、48施設
- ・ うち、内科標榜が39施設、外科標榜が7施設
- ・ また、産婦人科標榜が2施設（宮古②）
- ・ 小児科標榜は、5施設（釜石③、山田①、田野畑①）
- ・ 休日夜間急患センターあり（宮古市休日急患診療所）

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ⑧久慈医療圏

- 久慈医療圏では、高度急性期、急性期及び回復期は県立久慈病院を中心として主に公的病院が担い、慢性期は主に民間病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。
- 久慈医療圏には、基幹病院として久慈病院が所在している。
- 久慈病院は、圏域の基幹病院及び救命救急センターとしての機能を担い、三次救急医療やがん医療、脳卒中等の高度専門医療を提供。また、医療圏内での分娩の取扱いが久慈病院のみ。リスクの高い妊産婦の分娩に係る八戸、二戸など隣接する医療圏との連携が重要となっている。



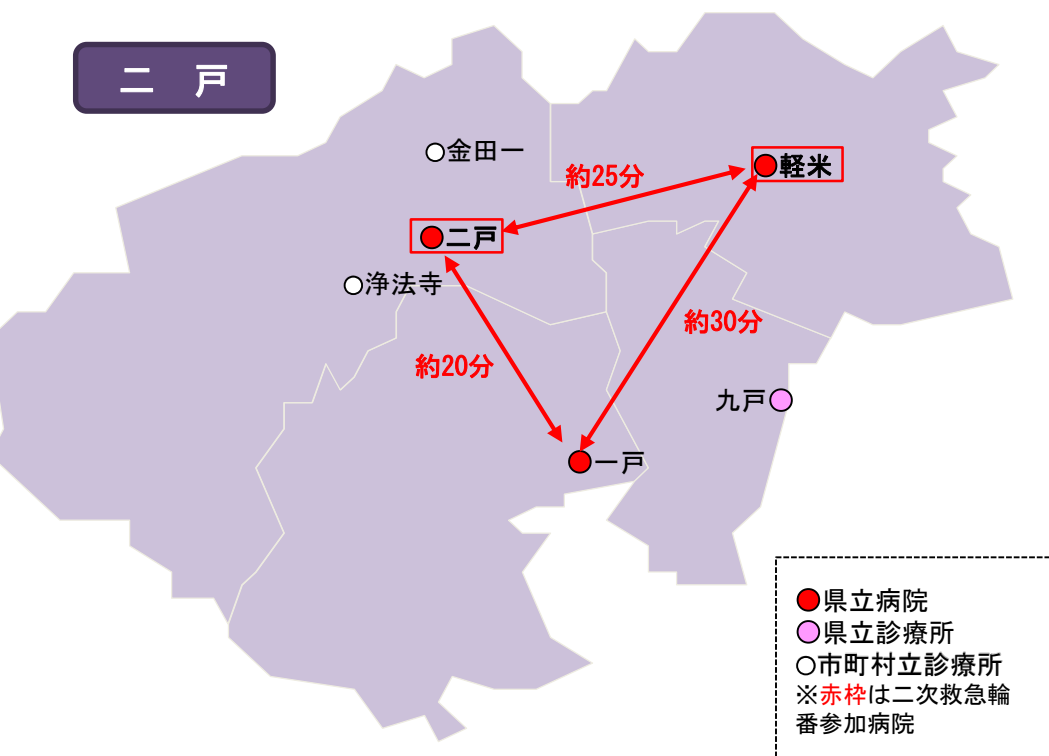
病院における主な診療科の設置状況(令和4年7月医療施設動態調査)	診療科名	病院数	備考
	内科	3	久慈、久慈恵愛、種市
	呼吸器内科	2	久慈、久慈恵愛
	循環器内科	2	久慈、久慈恵愛
	脳神経内科	2	久慈、北リアス
	糖尿病内科	—	診療科なし
	外科	3	久慈、久慈恵愛、種市
	心臓血管外科	—	診療科なし
	脳神経外科	1	久慈
	整形外科	2	久慈、久慈恵愛
	産婦人科	1	久慈
	小児科	1	久慈

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、31施設
- ・ うち、内科標榜が28施設、外科標榜が3施設
- ・ また、産婦人科標榜が1施設(久慈①)
- ・ 小児科標榜は、3施設(久慈②、普代①)
- ・ 救命救急センターとして、久慈病院を指定

【参考】各保健医療圏及び所在する県立病院等の状況 ⑨二戸医療圏

- 二戸医療圏では、高度急性期、急性期及び慢性期は県立二戸病院を中心として主に公的病院が担うかたちで医療提供体制が確保されている。回復期を担う医療機関はほとんどない。
- 二戸医療圏には、基幹病院として二戸病院、地域病院として一戸病院、軽米病院のほか、九戸地域診療センターが所在している。
- 二戸病院は、圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療やがん医療、周産期医療等の高度・専門医療を提供。
- 一戸病院は、県北部における精神医療の拠点。圏域の地域病院として、基幹病院である二戸病院と連携しながら入院医療等を提供。
- 軽米病院は、圏域の地域病院として、基幹病院である二戸病院と連携しながら入院医療等を提供。地域包括ケア病床を稼働し急性期医療後の回復期患者等を受け入れ。



病院における主な診療科の設置状況(令和4年7月医療施設動態調査)	診療科名	病院数	備考
	内科	3 二戸、軽米、一戸	
	呼吸器内科	1 二戸	
	循環器内科	1 二戸	
	脳神経内科	2 二戸、一戸	
	糖尿病内科	－ 診療科なし	
	外科	3 二戸、軽米、一戸	
	心臓血管外科	－ 診療科なし	
	脳神経外科	1 二戸	
	整形外科	2 二戸、一戸	
	産婦人科	1 二戸	
	小児科	3 二戸、軽米、一戸	

【その他】

- ・ 圏域内の一般診療所数については、39施設
- ・ うち、内科標榜が31施設、外科標榜が7施設
- ・ また、産婦人科標榜が1施設(二戸①)
- ・ 小児科標榜は、4施設(二戸②、一戸①、九戸①)